

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた
幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して

吉田町幼児教育カリキュラム

教師・保育士用指導書

(新幼稚園教育要領・新保育所保育指針・新学習指導要領対応)



平成30年3月
吉田町・吉田町教育委員会



吉田町長
田村典彦

ごあいさつ

子どもは町の宝であり、かけがえのない財産です。

町では、この子どもたちが健やかに育ち、親が安心して子どもを産み育てることができ、社会の実現に向けて妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を目指しております。

また、子どもたちが乳幼児期の大切な時期を過ごす保育所等は子どもが生涯における人格や人間形成の基礎を培う極めて重要な場所であり、家庭や地域の子育て力の低下が指摘されている現状では、保育所のみならず幼稚園等を含めたすべての施設で質の高い養育と教育の機能がこれまで以上に強く求められております。

さらに、子どもの学びは校種が変わっても連続していますので、幼児期に身に付けた力を小学校で十分に発揮してもらうため、幼児教育と小学校教育のつながりも極めて重要と考えています。

保育所や幼稚園等での遊びや生活が小学校以降の学ぶ力の土台づくりにつながることに配慮し、吉田町の子どもたちが新しい時代に必要となる資質と能力を備え、未来の創り手となり社会に羽ばたくことができるよう幼児教育の推進体制を構築し、この度「吉田町幼児教育カリキュラム」の指導書を作成いたしました。

本指導書が関係者の中で広く共有され、活用されることにより次代を担う子どもたちが当町で生き生きと学び、成長していくとともに保護者の皆様にも安心して子育てができる環境となることを切に願っております。

最後に、この幼児教育カリキュラムの指導書を作成するにあたり、貴重な御意見・御提言を頂きました、幼児教育カリキュラムの作成委員会並びに実施委員会の委員長を務めてくださいました千葉大学教育学部教授松崎洋子様をはじめ、委員の皆様並びに関係各位に深く感謝申し上げます。



吉田町教育長

浅井 啓 言

ごあいさつ

現在、少子化、核家族化、地域社会の変容、都市化、グローバル化など、子どもの教育をめぐる社会環境が大きく変わり、子どもたちの育ちをめぐっても、さまざまな課題が生じています。

特に、教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できないなどといった、いわゆる「小1 プロブレム」が生じており、大きな課題となっています。

こうした課題を踏まえ、国が定める学習指導要領においても幼・保・小の連携を図ることの重要性が示されるなど、幼稚園・保育所等や小学校には、子どもの発達に合わせ、学びの連続性を確保できるよう、その円滑な接続を図り、子どもの健やかな育ちを支えていくことが求められています。

当町においても、平成 27 年度に策定された「吉田町教育大綱」において、切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進を掲げており、その取組の一環として平成 28 年度には、本大綱に基づき「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」を立ち上げ、幼稚園教員、保育士、小学校教員の代表者が 3 歳時から 1 年生までの実践を持ち寄り、各校種保護者代表者とともに幼稚園教育要領等に示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、実際の子どもの姿を抽出、検討するとともに、発達に即して整理し、平成 29 年 3 月に「吉田町幼児教育カリキュラム」として取りまとめました。そして、この度、このカリキュラムに基づいた関係機関における平成 29 年度の実践をもとに、教師・保育士用の指導書を作成しましたので、ここに公表させていただきます。

本指導書が、幼児期の教育から小学校教育へと子どもたちの健やかな育ちを支え、幼稚園・保育所等と小学校のさらなる連携が充実し、深まるための一助となることを心から願っております。

結びに、本指導書の作成にあたり、全体を通じて御指導くださいました、千葉大学教育学部教授松寄洋子様をはじめ、カリキュラムの作成から本指導書の作成にご尽力くださいました作成委員会並びに実施委員会の委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

目次

| | | |
|----|---|-----|
| 1 | 吉田町幼児教育カリキュラムの作成の目的 | P 1 |
| 2 | 吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育を実施する施設 | P 1 |
| 3 | 吉田町幼児教育カリキュラムの特色 | P 2 |
| 4 | 吉田町幼児教育カリキュラム及び指導書の完成までの流れ | P 3 |
| 5 | 吉田町幼児教育カリキュラム及び指導書の活用 | P 4 |
| 6 | 子どもの成長記録（研究用）「ピーナッツプロフィール」の活用 | P 5 |
| 7 | 吉田町幼児教育カリキュラム（ステップごとの「育てたい子どもの姿」と「指導の留意点」） | P 6 |
| 8 | 吉田町幼児教育カリキュラム「発達過程における育てたい子どもの姿」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一覧 | P16 |
| 9 | 吉田町幼児教育カリキュラム「ピーナッツプロフィール」 | P17 |
| 10 | 資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力の整理イメージ | P18 |
| 11 | 平成 29 年度吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会の実施 | P19 |
| 12 | 平成 29 年度の実践事例について | P20 |
| | I ちどり幼稚園 | P21 |
| | II さくら保育園 | P33 |
| | III ひばり幼稚園 | P41 |
| | IV さゆり保育園 | P43 |
| | V すみれ保育園 | P45 |
| | VI わかば保育園 | P47 |
| | VII こども発達支援事業所 | P49 |
| | VIII 住吉小学校 | P51 |
| | IX 中央小学校 | P53 |
| | X 自彊小学校 | P55 |
| 13 | 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業について | P57 |
| 14 | 吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会の委員の紹介 | P63 |
| 15 | 吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会の委員の紹介 | P64 |

1 吉田町幼児教育カリキュラムの作成の目的

幼児期は、生涯における人格や人間形成の基礎を培う重要な時期であり、その教育や保育活動は、大人になってからの生活に差を生じさせるほか、幼児期における語彙数、多様な運動経験などがその後の学力、運動能力に大きな影響を与えることが共通認識となっています。そのため、幼稚園のみならず、保育所を含めたすべての施設全体で質の高い幼児教育を提供することがより一層求められているところです。

近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下しています。教育現場では、小学校就学時の接続期において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話が聞けないなどといった、いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きています。

また、私立幼稚園、公立保育所・こども発達支援事業所及び公立小学校の交流・連携は十分ではなく、園児や児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流が中心となっており、小学校以降の学びの連続性を意識した共通のカリキュラムに基づいた実践は行われていませんでした。

そこで、吉田町においても、幼児期に適切な教育を施すことが重要であるという認識のもと、吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、まず、幼児期における学びを小学校の学びへとつなげるための「幼児教育カリキュラム」を作成することといたしました。

このカリキュラムを基に、幼稚園、保育所等から小学校接続期までの「学び」や「育ち」を見通した教育実践を展開することによって、子どもたちのかかえる問題を解決していきます。

具体的には、幼・保・小で「育てたい子どもの姿」を共有し、その実現に向けて子どもの発達と学びの連続性を踏まえ、共通したカリキュラムを基に、幼稚園、保育所から小学校へと滑らかにつなぐ教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきます。

2 吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育を実施する施設

| | |
|------|---|
| 幼稚園 | ひばり幼稚園・ちどり幼稚園 |
| 保育所等 | さくら保育園・すみれ保育園 さゆり保育園・わかば保育園・こども発達支援事業所 |
| 小学校 | 住吉小学校・中央小学校・自彊小学校 |

3 吉田町幼児教育カリキュラムの特色

(1) 公・私、校種の垣根を越え、共通認識をもった幼児教育の推進

私立幼稚園及び公立保育所等並びに公立小学校の関係者が、吉田町の「育てたい子どもの姿」を共有し、互いに高め合うことができるカリキュラムを作成しました。

(2) 教育大綱に基づいたつながりのある質の高い教育の推進

吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、幼児期における学びを小学校の学びへとつなげるための質の高い教育を目指しています。

(3) 現場の幼児教育活動を生かしたカリキュラムの作成

幼稚園関係者及び保育所関係者並びに小学校関係者等で構成する「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」で、これまでの幼児教育の活動を最大限に生かせるよう、実践しやすいカリキュラムとなっています。

(4) 改訂幼稚園教育要領・改定保育所保育指針の反映

「育成を目指す資質・能力」の三つの柱や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を基にした改訂幼稚園教育要領及び改定保育所保育指針の内容を十分に反映させています。

(5) 子ども一人ひとりの学びの成長を見取ることができる構造

歳児別ではなく、発達段階（ステップ3段階）における目指す姿を設定し、子ども一人ひとりの学びの成長を的確に把握できる内容となっています。

※今後、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点として、要録を作成することになります。

(6) カリキュラム作成委員会と各園・所・学校の職員研修の連動

カリキュラム完成後、どの施設でも研究実践を可能にするために、作成委員会と各施設の職員研修の連動を図りました。

ア カリキュラム作成委員会では、演習を含めたグループワークを行う。

イ 委員は、各園・所・学校において、演習をもとにして職員研修を実施し、カリキュラムの要素をレポートとしてまとめる。

ウ 各園・所・学校から提出されたレポートをもとに、事務局がカリキュラム作成を進める。

ア、イ、ウの流れにより、町内の幼児教育関係者に、国の動向や吉田町の見守る姿、方向性などが周知、共有が図られています。

(7) 平成 29 年度以降のカリキュラムの活用

ア 全関係施設でのカリキュラムの実践に加え、吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会を設置・開催をするとともに、実践指定園の公立保育所（1園）、私立幼稚園（1園）の研究会での意見交換会を基にカリキュラムの検証を行うことでPDCAサイクルを構築していきます。

イ 子どもの成長記録（指導者研究用）の「ピーナッツ プロフィール」を共有し、個に応じた支援を適切に行っていき、指導者が指導と評価の一体化を図ります。

※ピー → 「ピッカピカの1年生」

ナ → 「なんでも挑戦できるよ」

ツ → 「つながりのある教育」

The table is a grid with 4 columns and 10 rows. The columns are labeled: 幼稚園 (幼稚園), 公立保育所 (公立保育所), 私立幼稚園 (私立幼稚園), and 小学校 (小学校). The rows represent different developmental stages or activities, with some cells containing specific curriculum content or checkmarks. The title is '吉田町幼児教育カリキュラム（ピナッツ プロフィール）'.

4 吉田町幼児教育カリキュラム及び指導書の完成までの流れ

【吉田町幼児教育カリキュラム作成】

(1) 平成 28 年 9 月 7 日 (水)

第 1 回吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会開催
「10 項目を基にしためざす姿の検討」

(2) 平成 28 年 9 月 21 日 (水)

第 2 回吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会開催
「10 項目を基にした各活動の洗い出し」

(3) 平成 28 年 11 月 4 日 (金)

第 3 回吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会開催
「10 項目を基にした各活動のめざす姿、指導の留意点の作成①」

(4) 平成 28 年 12 月 26 日 (月)

第 4 回吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会開催
「10 項目を基にした各活動のめざす姿、指導の留意点の作成②」

(5) 平成 29 年 2 月 28 日 (火)

第 5 回吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会開催
「10 項目を基にした各活動のめざす姿、指導の留意点の作成③」
「実践報告」

(6) 平成 29 年 3 月 29 日 (水)

吉田町幼児教育カリキュラム完成報告会開催
「委員長から町長へのカリキュラム手交」



【指導書作成】

(1) 平成 29 年 5 月 31 日 (水)

第 1 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「指導の留意点の検討①」

(2) 平成 29 年 8 月 25 日 (金)

第 2 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「指導の留意点の検討②」

(3) 平成 30 年 1 月 17 日 (水)

第 3 回吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会開催
「指導の留意点の検討③」
「実践報告」



5 吉田町幼児教育カリキュラム及び指導書の活用

(1) 吉田町幼児教育カリキュラムについて

ア 「発達過程における育てたい子どもの姿」の3段階の「ステップ」

文部科学省が示している「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目の内容を基に、「発達過程における育てたい子どもの姿」の「ステップ1」、「ステップ2」、「ステップ3」を設定したことにより、子ども一人ひとりの学びの成長を的確に把握できます。

イ 実践に基づき設定された「指導の留意点」

平成29年度、吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた各施設の実践から意見を持ち寄り、実施委員会で検討を重ねた「指導の留意点」の主な内容を設定してあります。

ウ ボトムアップ式の研修を実現するための「メモ欄」

平成30年度以降、「発達過程における育てたい子どもの姿」や「指導の留意点」に基づいた日々の実践から、「指導の留意点」がさらに明確になっていきます。日々の実践から考えたことや感じたこと、子どもの姿などの記録が、指導者の指導力向上につながります。また、園内研修の充実に向け、事前・事後研修会などにも活用できます。

7 吉田町幼児教育カリキュラム

① 健康な心と体

集団生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 様々な遊びの中で、遊具を使ったり、体を思いきり動かしたりして遊びを楽しむ。
- 様々な食べ物に興味・関心をもつ。
- 健康で安全に過ごすためのルールがあることを知る。(遊び方、身支度、避難、手洗いうがい、早寝・早起きなど)

指導の留意点

- 指導者と一緒に体を動かして遊び、楽しさを共有する。
- 子どもとの関わりの中で一人ひとりの信頼関係を築き、安心して生活できるようにする。
- 野菜や食べ物に関する絵本やペープサート、写真などを掲示する。また、育てる場をつくる。様々な場面を想定しながら、どんなルールがあるかを知らせていく。

メモ

ウ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 暑さや寒さに負けずに、戸外でいろいろな運動遊びや集団遊びを楽しむ。
- 友達と楽しく食べることでいろいろな味に親しむ。
- 生活や遊びのルールを守って行動する。

指導の留意点

- 指導者と一緒に遊びながら、戸外で積極的に体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを伝える。
- 一人ひとりが好きな遊びや場所を見つけて安心して過ごせるよう見守る。
- ボールや縄跳びなど、体を動かして遊べるように玩具や道具を用意する。
- 食べる意欲が増すようなクイズを取り入れるなど、食事の楽しい雰囲気づくりを心掛ける。
- ルールを子ども達に問いかけ、一緒に考える機会をつくる。また、意識できるような環境づくりをする。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 目標をもって挑戦したり、諦めずにやり通すことで達成感を味わい、様々な遊びや生活に意欲的に取り組む心をもつ。
- 野菜を育てたり、収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。
- 自分で判断しながら、生活や遊びのルールを守って行動する。

指導の留意点

- 挑戦する姿を認め、指導者も動みながら、できたときの喜びを共有し意欲的に挑戦できるようにする。
- 栽培を振り返ったり、調理を計画したりしながら、食べ物大切にし、感謝する気持ちがもてるよう働きかける。

メモ

7 吉田町幼児教育カリキュラム（ステップごとの「育てたい子どもの姿」と「指導の留意点」）

① 健康な心と体

集団生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

ステップ 1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 様々な遊びの中で、遊具を使ったり、体を思いきり動かしたりして遊びを楽しむ。
- 様々な食べ物に興味・関心をもつ。
- 健康で安全に過ごすためのルールがあることを知る。（遊び方、身支度、避難、手洗い・うがい、早寝・早起きなど）

指導の留意点

- 指導者も一緒に体を動かして遊び、楽しさを共有する。
- 子どもとの関わりの中で一人ひとりとの信頼関係を築き、安心して生活できるようにする。
- 野菜や食べ物に関する絵本やペープサート、写真などを掲示する。また、育てる場をつくる。
- 様々な場面を想定しながら、どんなルールがあるかを知らせていく。

メモ

ステップ 2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 暑さや寒さに負けずに、戸外でいろいろな運動遊びや集団遊びを楽しむ。
- 友達と楽しく食べることでいろいろな味に親しむ。
- 生活や遊びのルールを守って行動する。

指導の留意点

- 指導者も一緒に遊びながら、戸外で積極的に体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを伝える。
- 一人ひとりが好きな遊びや場所を見つけて安心して過ごせるよう見守る。
- ボールや縄跳びなど、体を動かして遊べるように玩具や道具を用意する。
- 食べる意欲が増すようなクイズを取り入れるなど、食事の楽しい雰囲気づくりを心掛ける。
- ルールを子ども達に問いかけ、一緒に考える機会をつくる。また、意識できるような環境づくりをする。

メモ

ステップ 3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 目標をもって挑戦したり、諦めずにやり通すことで達成感を味わい、様々な遊びや生活に意欲的に取り組む心をもつ。
- 野菜を育てたり、収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。
- 自分で判断しながら、生活や遊びのルールを守って行動する。

指導の留意点

- 挑戦する姿を認め、指導者も励ましながら、できたときの喜びを共有し意欲的に挑戦できるようにする。
- 栽培を振り返ったり、調理を計画したりしながら、食べ物を大切に、感謝する気持ちをもてるよう働きかける。

メモ



② 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 環境に慣れ、生活の流れを知り、基本的な生活習慣を身に付ける。(食事、着脱、排泄等)
- 自分のことは自分で行うが、できないことは助けを借りてやり遂げる。

指導の留意点

- 子どもが安心して頼れるような心の拠り所になり、気持ちを受け入れていく。
- 一人ひとりの発達の特徴を捉え、指導者が個々にあった生活の支援を行っていく。
- 一日の生活の流れを朝の会などで知らせ、見通しをもって安心して活動できるようにする。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 一人ひとりが自分らしさを大切にするとともに互いに認め合いながら遊びや生活をする。
- 友達との関わりを喜び、関わりの中で自分の思いを伝える。

指導の留意点

- 一人ひとりの頑張り認め、自信がもてるような言葉かけをしていく。
- 友達との関わりの中で気持ちの行き違いや葛藤を受け止め、相手の気持ちに気づき、自分の気持ちに折り合いをつけられるような声かけをする。
- 相手の話を聞く場や自分の思いを話す場を設け、友達の考えや思いに気付けるようにする。また、自分の思いが伝わる喜びを感じることができるようになる。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 自分の目標をもち、力を発揮して、苦手なことでも諦めずに挑戦する。
- 友達と協力し合い、一つのことを最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう。

指導の留意点

- できる、できないにとらわれずに何度でも挑戦することの大切さを知らせ、励ます。
- 活動や遊びを友達と共有し、何度も挑戦している姿を認めていく中で「自分も頑張ろう」という意欲をもたせていく。

メモ

③ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

ステップ 1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 身近な人、友達に興味をもち、関わろうとする。
- 相手にも思いや考えがあることを知る。
- 友達と一緒に遊びや生活をする中で、一緒に過ごす心地よさを味わう。

指導の留意点

- 指導者が子どもと一緒に様々な遊びを楽しみながら遊び場を広げていく。
- 身近な友達に興味をもてるよう指導者が遊びに参加したり、遊びに誘ったりして仲立ちしていく。
- 友達の存在に気付き、その場に合った言葉や関わり方を伝えていく。

メモ

ステップ 2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 友達とやりとりしながら、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちがわかったりする。
- 友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒に楽しむ。

指導の留意点

- 互いの思いを受け止め、代弁したり、共感したりしていく。
- 集団遊びを提供したり、子どもと一緒に遊びながら協力する楽しさを伝える。
- 思ったことや感じたことを表現し、友達の思いを認めながら活動に取り組む。

メモ

ステップ 3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 子ども同士で思いや考えを共有し、遊びや活動を充実させていく。
- 応援したり、励まし合ったりすることで同じ目標をみんなで達成する喜びを味わう。

指導の留意点

- 遊びや活動を充実させるために、時には子ども同士で考えたり、伝え合ったりできるような場を設定する。
- 生活の中で、協同的に学ぶことの楽しさや充実感を味わえるような機会をつくる。
- 友達の頑張っている姿を、励ましたり、応援したりする姿を認める。
- 自分達で目標に向かって活動を進めようとする気持ちをもてるように、日程や流れを図などで示し、活動に見通しを持たせる。

メモ

④ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 遊びや生活の中で良いことや悪いことに気付く。
- 身近な物を大切にする。
- 集団生活に必要なきまりやルールの大切さを知る。

指導の留意点

- 遊びや活動の前にきまりやルールをわかりやすく伝える。
- 生活の中で物の大切さについて伝えていく。
- 遊びの中で思い通りにならない時などの場面では、気持ちを受け止めたり、どうしたらいいのかを一緒に考えたりする。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 相手の気持ちを理解し、自分で良いことと悪いことを判断して行動する。
- 必要なルールを守って生活しようとする。

指導の留意点

- 遊びや生活の中で、つまずいた時、どうすれば解決するかを一緒に考える。
- 子ども達が必要なきまりやルールに気付くような機会をもつ。
- 我慢できたり、相手の気持ちを考えられたりしたときにたくさんほめて自信につなげる。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 自分の気持ちを調整し、折り合いを付けるようになる。
- 友達や周りに目を向け、思いやりや感謝の気持ちをもつ。
- 生活したり、遊んだりしやすいように自分達でルールや決まりを考える。

指導の留意点

- 指導者が先回りして解決せず、子どもが判断できるように見守ったり、援助したりする。
- 自分達で必要なきまりやルールを作り、守ることができるように促す。
- 指導者が一人ひとりのよさを認め、全体にも伝えていくことで友達のよさに気付くようにする。

メモ



⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

ステップ 1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 家族や地域の人に進んで挨拶ができるようになる。
- 地域のことに関心をもつ。

指導の留意点

- 散歩や園外活動などで出会った人に率先して挨拶をする。
- 公共施設を利用し、地域の人と関わる場を設定する。

メモ

ステップ 2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 積極的に他者と関わりながら社会の中の事象をより深め楽しむ。
- 公共施設でのマナーを知る。

指導の留意点

- 地域の人々と進んで関わろうとする意識がもてるよう、触れ合う機会の場を設定する。
- 異年齢児との関わり場の場を設定し、進んで関わろうとする意識をもたせる。

メモ

ステップ 3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 自分の役割に責任をもって取り組むことで、人のためになることを知り、喜びを感じる。
- 公共施設でのマナーを守り、仲間と共同して利用する。

指導の留意点

- 生活や活動の中で役割を決めて、取り組む機会をつくる。
- 相手に感謝の気持ちを伝えたり、伝えられたりすることで喜びが感じられるようにする。
- 公共施設などの利用を通して、社会とのつながりを意識できるようにする。

メモ

⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 遊びや生活を通していろいろな物事に興味や関心をもつ。
- 思ったことや感じたことを伝えようとする。

指導の留意点

- 遊びの中から子ども達が興味・関心をもてるよう、様々な素材や遊べる場所を設ける。
- 子どもの考えを理解し、イメージを広げられるような言葉かけをする。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- いろいろな体験を通して、想像したり、イメージを広げたりして試行錯誤する。
- 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞けるようになる。

指導の留意点

- 一つの遊びを十分に楽しめるように時間や場所を確保する。
- 絵本や図鑑を基に、自分の考えをもたせたり、友達の考えに興味をもたせたりするような関わりをする。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 性質や仕組みに気付き、工夫して生活の中に活かそうとする。
- 考えたことを友達と伝え合ったり、話し合ったりして互いに理解する。

指導の留意点

- 身近なものの性質や仕組みに気付き、予想したり、工夫したりするように、主体的にかかわる機会をつくる。
- 集団での取り組む場を設定し、自分の考えを友達と話し合う場面をつくる。

メモ

⑦ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付く、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 身近な水、砂、土、草花や虫などに触れることを楽しむ。
- 自然の美しさや不思議に気付く。

指導の留意点

- 指導者が一緒に水、砂、土、草花や虫などに触れて遊びながら自然と親しむ機会をつくる。
- 戸外や園外に出かける機会を多くもち、身近な事象を敏感に受け止めて表現し、子どもの感動や考えを引き出していく。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 季節の移り変わりに気付く。
- 栽培や飼育を通じて、身近な動植物の成長や生体に興味、関心をもつ。
- 自然に親しんだり、自然物を使って工夫して遊ぶようになる。

指導の留意点

- 季節や動植物に興味をもてるように絵本や図鑑を用意する。
- 自然物を遊びの中に取り入れ、環境を整えることで季節の変化を感じられるようにする。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 身近な自然について、絵本を見たり、図鑑で調べたりして関心を深める。
- 身近な動植物を労わったり、大切にしたりして命の尊さに気付くようになる。

指導の留意点

- 自分が知りたいことを図鑑で調べたり、遊びの中に取り入れたりできるように環境を整える。
- 動植物の観察や世話を通して、子どもの発見や感動に共感するとともに、命あるもの大切さを感じたり、育てる責任をもてるようになる。

メモ

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 生活や遊びの中で、記号やマークに親しみ、形や大きさの違いなどに気付く。
- 遊びの中で、形や大きさの違いなどに気付く。

指導の留意点

- 子ども達がわかりやすいように記号やマーク、文字などを使い環境を整える。
- 身近な場所に絵本を用意したり、読み聞かせをしたりする。
- 様々な形や大きさがあることに気付けるような言葉かけをする。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 文字や数、図形等に興味・関心をもつ。
- 様々な形や大きさの違いに気付き、形の違いや、面白さ不思議さを感じ興味、関心をもつ。

指導の留意点

- 遊びや生活の中で様々な標識や文字の存在に気付くように働きかける。
- 様々な色や形の玩具や素材などを用意し、その違いに気付くように援助する。
- 子どもが気付いた面白さ、不思議さに共感し、一緒に調べたり、発見したりする。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 遊びや生活の中で数量を数えたり、比べたりする。
- 文字や数が生活に繋がっていることに気付き、読んだり、書いたりすることを楽しむ。

指導の留意点

- 遊びや生活の中で、数や長さ、重さなどの違いに気付くような言葉かけをする。
- 遊びや生活の中で、文字や数に興味をもてるように働きかける。

メモ

⑨ 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

ステップ 1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 生活や遊びに必要な言葉がわかり使おうとする。
- 絵本などを通して、言葉の面白さに気付く。

メモ

指導の留意点

- 指導者が気持ちよく挨拶をする姿を見せたり、生活に必要な言葉を伝えたりする。
- 言葉の楽しさを感じられるように絵本や紙芝居などの読み聞かせをする。
- 子どもの言葉に耳を傾け、受け止めていく。
- 思いを十分に受け止め、自分の気持ちを伝えられるよう働きかける。



ステップ 2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。
- 絵本や紙芝居などを通して、ストーリーや言葉の面白さに気付く。

メモ

指導の留意点

- 子どもの思いや感じたことに共感する。
- いろいろな物を見たり、経験したりしていく中で、イメージが広がるように声かけをする。
- 自分の思い、要求、困ったことなどを言葉で伝えられるように生活の中で知らせていく。
- 言葉でやり取りする中で楽しさ、嬉しさを感じられるようにする。

ステップ 3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 友達と考え言葉で伝え合い、遊びを発展させていく。
- 相手や場面によって使う言葉を選んで話す。

メモ

指導の留意点

- 友達の話最後まで聞いたり、話し合いをしたりできるように援助する。
- 相手や場面に合った言葉づかいや話し方ができるように、指導者が見本となって見せたり、子どもと一緒に考えたりする。
- 自分の経験を話す機会をもち、相手に聞いてもらう喜びから自信をもって話ができるようにする。

⑩ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

ステップ1

発達過程における育てたい子どもの姿

- 音楽やリズムなどに合わせて、体を動かすことを楽しむ。
- きれいなものを見たり、聞いたりして、美しさや表現する楽しさを感じる。

指導の留意点

- 子ども達が楽しみ、親しめるような歌や手遊びなどの活動を設定し、感情を素直に表す姿を見守り、共感する。
- 様々な音色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする経験ができるようにする。

メモ

ステップ2

発達過程における育てたい子どもの姿

- 感じたことやイメージしたものを自分なりに工夫して作ろうとする。
- 感じたことを友達や指導者などに、言葉で伝え合ったり、表現したりする。

指導の留意点

- 感じたことや考えたことなどを表現できる機会をつくる。
- 表現している姿を認め、子どもをほめたり、みんなに紹介したりして表現する意欲を高める。
- 子どもの気持ちに寄り添い、一緒に動きながら楽しさを味わえるようにする。

メモ

ステップ3

発達過程における育てたい子どもの姿

- 感じたり、感動したりして、作品を作る過程を楽しむ。
- きれいなものや素晴らしいものを見たり聞いたりして、自分の表現に生かそうとする。

指導の留意点

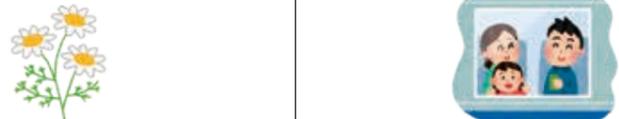
- 様々な素材や用具を用意し、自分で選び表現できる環境を設定する。
- 思考したり、表現したりしている子どもの姿を認め、達成感をもてるようにする。
- 美しいものに出会わせたり、一つの目標に向かってみんなで取り組む機会を設ける。

メモ



8 吉田町幼児教育カリキュラム「発達過程における育てたい子どもの姿」と

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一覧

| 項目 | 発達過程における育てたい子どもの姿 | | | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 |
|-----------------------|---|--|--|---|
| | ステップ1 | ステップ2 | ステップ3 | |
| ①健康な心と体 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な遊びの中で、遊具を使ったり、体を思いきり動かしたりして遊びを楽しむ。 様々な食べ物に興味・関心をもつ。 健康で安全に過ごすためのルールがあることを知る。(遊び方、身支度、避難、手洗い・うがい、早寝・早起きなど) | <ul style="list-style-type: none"> 暑さや寒さに負けずに、戸外でいろいろな運動遊びや集団遊びを楽しむ。 友達と楽しく食べることでいろいろな味に親しむ。 生活や遊びのルールを守って行動する。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標をもって挑戦したり、諦めずにやり通すことで達成感を味わい、様々な遊びや生活に意欲的に取り組む心をもつ。 野菜を育てたり、収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。 自分で判断しながら、生活や遊びのルールを守って行動する。 | <p>集団生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>  |
| ②自立心 | <ul style="list-style-type: none"> 環境に慣れ、生活の流れを知り、基本的な生活習慣を身に付ける。(食事、着脱、排泄等) 自分のことは自分で行うが、できないことは助けを借りてやり遂げる。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分らしさを大切にするとともに互いに認め合いながら遊びや生活をする。 友達との関わりを喜び、関わりの中で自分の思いを伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標をもち、力を発揮して、苦手なことでも諦めずに挑戦する。 友達と協力し合い、一つのことを最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう。 | <p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p> |
| ③協同性 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な人、友達に興味をもち、関わろうとする。 相手にも思いや考えがあることを知る。 友達と一緒に遊びや生活をする中で、一緒に過ごす心地よさを味わう。 | <ul style="list-style-type: none"> 友達とやりとりしながら、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちがわかったりする。 友達と同じ活動に参加し、みんなで一緒に楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士で思いや考えを共有し、遊びや活動を充実させていく。 応援したり、励まし合ったりすることで同じ目標をみんな達成する喜びを味わう。 | <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> |
| ④道徳性・規範意識の芽生え | <ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で良いことや悪いことに気付く。 身近な物を大切にする。 集団生活に必要なきまりやルールの大切さを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを理解し、自分で良いことと悪いことを判断して行動する。 必要なルールを守って生活しようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを調整し、折り合いを付けるようになる。 友達や周りに目を向け、思いやりや感謝の気持ちをもつ。 生活したり、遊んだりしやすいように自分達でルールや決まりを考える。 | <p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p> |
| ⑤社会生活との関わり | <ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の人に進んで挨拶ができるようになる。 地域のことに興味・関心をもつ。  | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に他者と関わりながら社会の中の事象をより深く楽しむ。 公共施設でのマナーを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に責任をもって取り組むことで、人のためになることを知り、喜びを感じる。 公共施設でのマナーを守り、仲間と共同して利用する。 | <p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付く、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p> |
| ⑥思考力の芽生え | <ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活を通していろいろな物事に興味や関心をもつ。 思ったことや感じたことを伝えようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろな体験を通して、想像したり、イメージを広げたりして試行錯誤する。 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞けるようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 性質や仕組みに気付き、工夫して生活の中に活かそうとする。 考えたことを友達と伝え合ったり、話し合ったりして互いに理解する。 | <p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p> |
| ⑦自然との関わり・生命尊重 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な水、砂、土、草花や虫などに触れることを楽しむ。 自然の美しさや不思議に気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> 季節の移り変わりに気付く。 栽培や飼育を通じて、身近な動植物の成長や生体に興味、関心をもつ。 自然に親しんだり、自然物を使って工夫して遊ぶようになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然について、絵本を見たり、図鑑で調べたりして関心を深める。 身近な動植物を労わったり、大切にしたりして命の尊さに気付くようになる。 | <p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p> |
| ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、記号やマークに親しみ、形や大きさの違いなどに気付く。 遊びの中で、形や大きさの違いなどに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> 文字や数、図形等に興味・関心をもつ。 様々な形や大きさの違いに気付き、形の違いや、面白さ不思議さを感じ興味、関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で数量を数えたり、比べたりする。 文字や数が生活に繋がっていることに気付き、読んだり、書いたりすることを楽しむ。 | <p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p> |
| ⑨言葉による伝え合い | <ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに必要な言葉がわかり使おうとする。 絵本などを通して、言葉の面白さに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。 絵本や紙芝居などを通して、ストーリーや言葉の面白さに気付く。 | <ul style="list-style-type: none"> 友達と考え言葉で伝え合い、遊びを発展させていく。 相手や場面によって使う言葉を選んで話す。 | <p>先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p> |
| ⑩豊かな感性と表現 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽やリズムなどに合わせて、体を動かすことを楽しむ。 きれいなものを見たり、聞いたりして、美しさや表現する楽しさを感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> 感じたことやイメージしたものを自分なりに工夫して作るようになる。 感じたことを友達や指導者などに、言葉で伝え合ったり、表現したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 感じたり、感動したりして、作品を作る過程を楽しむ。 きれいなものや素晴らしいものを見たり聞いたりして、自分の表現に生かそうとする。 | <p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p> |

9 吉田町幼児教育カリキュラム 「 ピーナッツ プロフィール 」

| | |
|-----|--|
| 所属 | |
| 児童名 | |

| | |
|-----|--|
| 所属 | |
| 児童名 | |

| | |
|-----|--|
| 所属 | |
| 児童名 | |

| | |
|-----|--|
| 所属 | |
| 児童名 | |

年少(年度末)
3歳児

年中(年度末)
4歳児

年長(年度末)
5歳児

小学校1年(年度末)
6歳

| | ステップ | | |
|------------------------|------|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| ① 健康な心と体 | | | |
| ② 自立心 | | | |
| ③ 協同性 | | | |
| ④ 道徳性・規範意識の芽生え | | | |
| ⑤ 社会生活との関わり | | | |
| ⑥ 思考力の芽生え | | | |
| ⑦ 自然との関わり・生命尊重 | | | |
| ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | | |
| ⑨ 言葉による伝え合い | | | |
| ⑩ 豊かな感性と表現 | | | |
| 記録者 | | | 印 |



| | ステップ | | |
|------------------------|------|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| ① 健康な心と体 | | | |
| ② 自立心 | | | |
| ③ 協同性 | | | |
| ④ 道徳性・規範意識の芽生え | | | |
| ⑤ 社会生活との関わり | | | |
| ⑥ 思考力の芽生え | | | |
| ⑦ 自然との関わり・生命尊重 | | | |
| ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | | |
| ⑨ 言葉による伝え合い | | | |
| ⑩ 豊かな感性と表現 | | | |
| 記録者 | | | 印 |

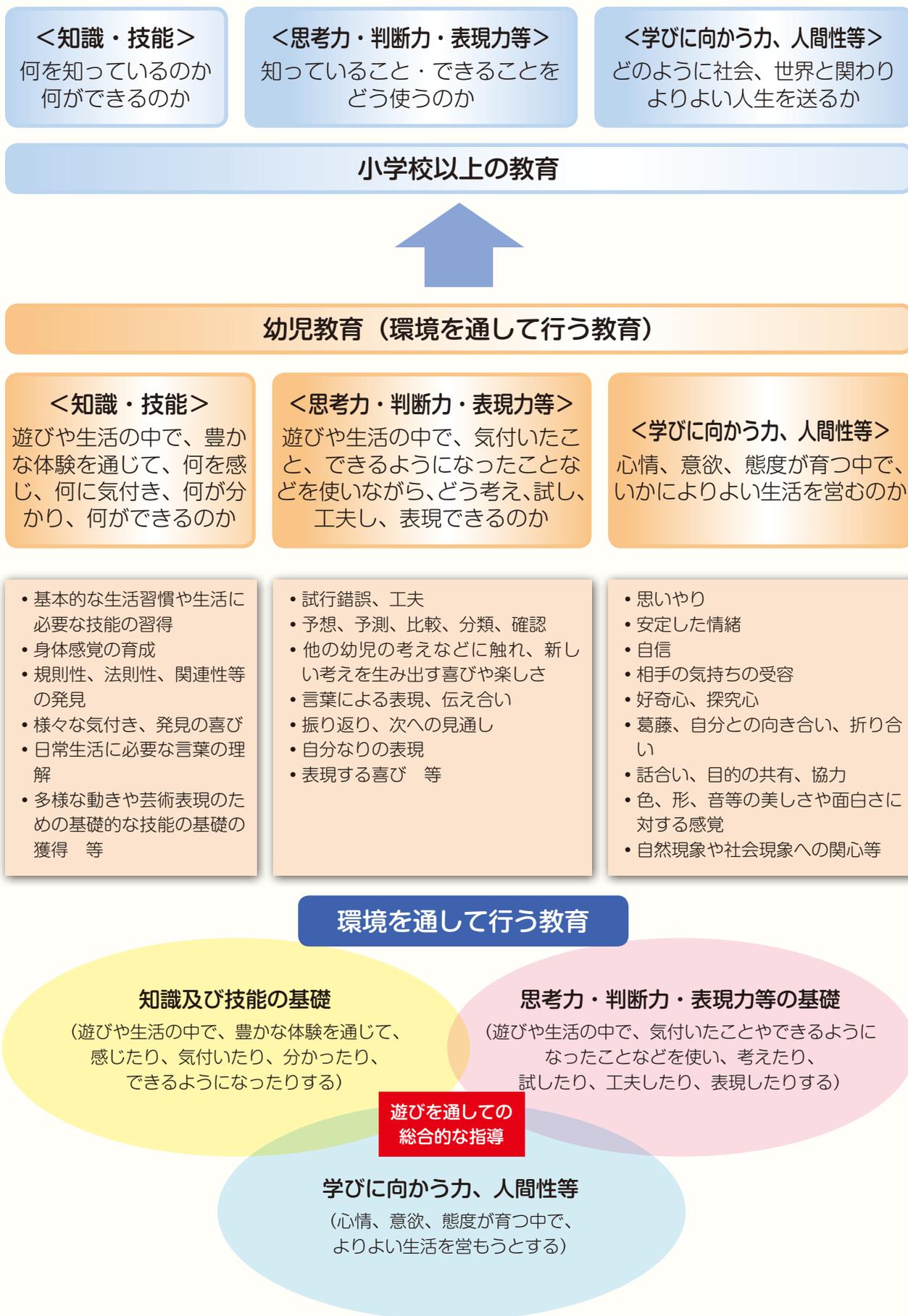


| | ステップ | | |
|------------------------|------|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| ① 健康な心と体 | | | |
| ② 自立心 | | | |
| ③ 協同性 | | | |
| ④ 道徳性・規範意識の芽生え | | | |
| ⑤ 社会生活との関わり | | | |
| ⑥ 思考力の芽生え | | | |
| ⑦ 自然との関わり・生命尊重 | | | |
| ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | | |
| ⑨ 言葉による伝え合い | | | |
| ⑩ 豊かな感性と表現 | | | |
| 記録者 | | | 印 |



| | ステップ | | |
|------------------------|------|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| ① 健康な心と体 | | | |
| ② 自立心 | | | |
| ③ 協同性 | | | |
| ④ 道徳性・規範意識の芽生え | | | |
| ⑤ 社会生活との関わり | | | |
| ⑥ 思考力の芽生え | | | |
| ⑦ 自然との関わり・生命尊重 | | | |
| ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | | | |
| ⑨ 言葉による伝え合い | | | |
| ⑩ 豊かな感性と表現 | | | |
| 記録者 | | | 印 |

10 資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい資質・能力の整理イメージ



11 平成 29 年度吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会の実施

(1) 吉田町幼児教育カリキュラム実践園の指定について

ア 目的

指導者が「育てたい子どもの姿」を共有し、その実現に向けて子どもの発達と学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図るために、公立保育園と私立幼稚園のそれぞれ 1 園を研究実践園として指定し、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた研究実践を行う。

イ 平成 29 年度研究実践園

(ア) 吉田町立さくら保育園

(イ) 学校法人川尻学園ちどり幼稚園

(2) 吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会について

ア 開催目的

幼稚園、保育所等、小学校の人的交流と研修機会を確保し、幼児教育に関連する指導者の質的向上を図るために、指定された実践園にて公開保育及び研究協議会等を開催する。

イ 開催期日及び参加者、内容

(ア) 吉田町立さくら保育園

【開催期日】平成 29 年 7 月 12 日（水）

【参加者】実施委員会委員及び各施設希望指導者

【助言者】千葉大学教育学部 教授 松寄洋子 氏

【内容】公開保育及び研究協議会

(イ) 学校法人川尻学園ちどり幼稚園

【開催期日】平成 29 年 10 月 25 日（水）

【参加者】実施委員会委員及び各施設希望指導者

【助言者】国立教育政策研究所 教育課程調査官 津田正之 氏

国立教育政策研究所 教育課程調査官 河合優子 氏

千葉大学教育学部 教授 松寄洋子 氏

【内容】公開保育及び研究協議会



12 平成 29 年度の実践事例について



平成 29 年度における吉田町内の幼稚園、保育所等並びに小学校の取組を紹介します。

「吉田町幼児教育カリキュラム」を基に、幼稚園、保育所等と小学校で実践された活動や授業について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「発達過程における育てたい子どもの姿」を踏まえてまとめました。

各実践事例は、次のように構成されています。

- 1 活動名（歳児・学年、活動月）
- 2 活動時期の子どもの実態
- 3 活動のねらい
- 4 活動の考察
- 5 指導の留意点
- 6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目との関連

今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきます。

紹介する実践事例（一覧）

| 項目 | 施設名 | 歳児・学年 | 活動月 | 活動名 |
|------|-----------------------------|-------|------|----------------------------|
| I | 吉田町幼児教育カリキュラム実践園 ちどり幼稚園※ | 5 歳 | 10 月 | みんなでおいしい『ふろふき冬瓜』を作って食べよう！ |
| II | 吉田町幼児教育カリキュラム実践園 さくら保育園※ | 5 歳 | 7 月 | のびのびっこ（一緒にあそぼう） |
| III | ひばり幼稚園 | 5 歳 | 12 月 | 身近な自然を楽しむ ～まつぼっくりのツリーを作ろう～ |
| IV | さゆり保育園 | 3 歳 | 10 月 | 運動遊び（爆弾ボールゲーム） |
| V | すみれ保育園 | 5 歳 | 12 月 | 合同壁面製作 |
| VI | わかば保育園 | 5 歳 | 11 月 | ぼくたちのまちをつくろう！ |
| VII | こども発達支援事業所 | 5 歳 | 11 月 | お店屋さん |
| VIII | 住吉小学校 | 1 年 | 4 月 | お話玉手箱（読み聞かせ） |
| IX | 中央小学校 | 1 年 | 通年 | 給食当番、さつまいもパーティー |
| X | 自彊小学校 | 1 年 | 5 月 | お兄さん・お姉さんと一緒に学校探険をしよう |

※吉田町幼児教育カリキュラム実践園（ちどり幼稚園、さくら保育園）については、研究会の公開保育における指導案や教育計画等の資料を添付してあります。

I ちどり幼稚園

1 活動名「みんなでおいしい『ふろふき冬瓜』を作って食べよう！」（5歳児 10月）

2 活動時期の子どもの実態

2学期に入り、運動会の練習を通して“友だちと力を合わせる大切さ”や“みんなでやり遂げる達成感”を味わったことで仲間意識が深まり、グループで協力したり考えたりする場面も増えてきた。しかし、まだ話し合いの時は、意見を積極的に言う子・相手の意見を受け入れられない子・うなずき賛成するだけの子など姿は様々である。農園活動では、冬野菜の観察や世話をしている。9月は、収穫したオクラを調理して異年齢におすそ分けしたことや自分たちが切った冬瓜を味噌汁にして祖父母参観会で振る舞うことを通して「おいしい」「ありがとう」と言われ、喜んでもらえる嬉しさを感じた子が多くみられた。



3 活動のねらい

- ・友だちと一緒に冬瓜を切ったり、おいしいタレになるよう考えたりすることを楽しむ。
- ・自分たちが収穫したものを年中さんにも食べてもらいたいという気持ちをもって調理する。

4 活動の考察

子ども達が、ちどりっこ農園で冬瓜を栽培し、その生長に驚きや喜びを感じたり、触れて興味をもったり、収穫して達成感を味わったりしたことで調理の活動では、“みんなでおいしく食べたい”という気持ちで意欲的に取り組む子の姿が多くみられた。また、事前にグループ活動として話し合いの場を数回設けたり、グループ色のバッチを子ども達が手作りしたことで仲間意識が高まり、活動中は、友だちと相談しながら



作業をすすめたり、使いやすい道具を自分たちで選んだり、味見して調味料を調整したりするなど教師を頼らず自発的に行動することができたとも考えられる。グループごとに調理の手順がわかる図や表を用意したことも、見通しをもって行動するために必要な手立てとなっていた。食事の際には、年中さんから「おいしい」「おかわり」

「ありがとう」などと言われたことでとても喜び、大きな自信につながったものと思われる。この活動を通して、友だち同士で活動をすすめていく楽しさを知った子ども達が、“こうしたい！” “これもやってみよう！” と、意見を出し合いながら夢中になって遊ぶ様子がみられるようになったと感じる。今後も、子どもが意欲的に取り組める活動を積み重ねていきたい。

5 指導の留意点

- ①ちどりっこ農園で栽培した冬瓜を活用することで、子ども達の意欲も高まり“おいしく食べたい”という思いも強まると考える。
- ③グループで活動に取り組むことで、一人では気が付かないことも相談したり、助け合ったりすることで学ぶことや発見を楽しむことができると思う。
- ⑤異年齢とかかわることで、目的がはっきりとし自覚をもって行動したり、自信や達成感につなげたりしていきたい。
- ⑥包丁や火などの道具を利用することで、扱い方や特徴を直接体験の中で知り、知識や興味へとつながるようにしたい。
- ⑧調理の手順がわかる図や表を用意することで、見通しをもって必要な数を把握したり、分量を考えたりすることができると思う。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|--|
| ① | 健康な心と体 | 野菜を育てることで、食べ物に興味をもちみんなで食べる美味しさを味わう |
| ③ | 協同性 | 友だちとやり取りしながら思いや考えを共有し、活動を充実させていく |
| ⑤ | 社会生活との関わり | 身近な人と触れ合う中で、自分の役割に責任をもって取り組み、役に立つ喜びを感じる |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 物の性質や仕組みに気づき工夫して活かそうとしたり、友だちと互いに考えて理解したりしていく |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 活動の中で、材料や使用物の数量を数えたり、切った冬瓜の大きさを比べたりする |



資料1 指導案（ちどり幼稚園）

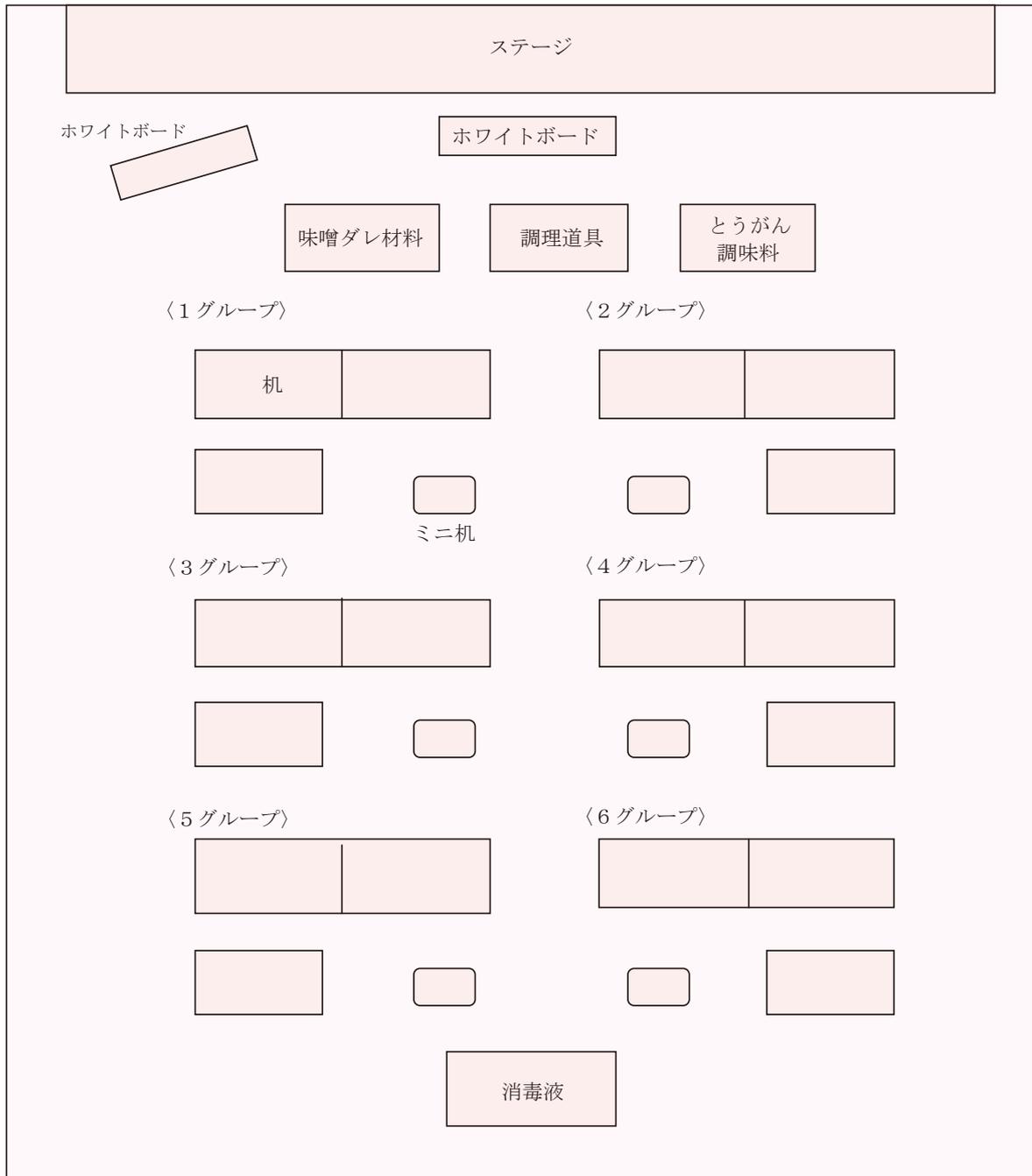
| | | | | | |
|-------|---|--|-------|---|------|
| 実施クラス | つきぐみ（年長児） 男児16名 女児14名 計30名 | | | 担任 | 高島朋子 |
| 実施日時 | 10月25日（水） 9時45分～ | | | 11時00分 | |
| 幼児の実態 | <p>・2学期に入り、運動会の練習を通して“友だちと力を合わせる大切さ”や“みんなでやり遂げる達成感”を味わったことで仲間意識が深まり、グループで協力したり考えたりする場面も増えてきた。しかし、まだ話し合いの時は、意見を積極的に言う子・相手の意見を受け入れられない子・うなずき賛成するだけの子など姿は様々である。</p> <p>・農園活動では、冬野菜の観察や世話を行っている。先月は、収穫したおくらを調理して異年齢におすそ分けしたことや自分たちが切った冬瓜をみそ汁にして祖父母参観会で振る舞うことを通して「おいしい」「ありがとう」と言われ、喜んでもらえる嬉しさを感じた子が多くみられた。</p> | | | | |
| 活動 | みんなでおいしい【ふろふき冬瓜】を作って食べよう！ | | | | |
| ねらい | <p>・友だちと一緒に冬瓜を切ったり、おいしいタレになるよう考えたりすることを楽しむ</p> <p>・自分たちが収穫したものを年中さんにも食べてもらいたいという気持ちをもって調理する</p> | | | | |
| 時間の目安 | 子どもの活動・予想される姿 | ○指導者の援助 | ●環境構成 | 主によみとれる姿 | |
| 《事前に》 | *冬瓜の生長観察、収穫 | ●お母さん先生に協力をお願いする (包丁・火元の安全面への配慮) | | ⑤あいさつ ②生活習慣 ①遊ぶ意欲 ④道徳性 ⑦自然に親しむ ④規範意識 ①安全な生活 | |
| 《前日》 | *包丁の経験 *試食体験 など | ●ホワイトボードや各机に作り方を提示する | | | |
| | *机や椅子をホールに運ぶ | ●材料や道具をステージ側に用意する | | | |
| | *活動の流れを確認する | ●朝、鍋・コンロを各机に設置する | | | |
| 8:30 | ◎登園する (徒歩・車・バスなど順次) | ○一日のスタートが気持ちよく始まるように教師自身が明るく元気にあいさつをし、視診する | | | |
| | ・朝のあいさつをする ・所持品の始末をする | ●遊びが楽しめるように必要な道具や材料などを整える | | | |
| | ◎好きな遊びをする | ○友だち同士で思いを伝え合いながら遊びを展開させていく楽しさに共感したり、良い所を認めて自信がもてるような言葉をかけたりする | | | |
| | [園庭]砂場・色水あそび、縄跳び どんぐりゴマ作り | ●自分たちで片づけしやすいように置き場や分類の仕方を表示する | | | |
| | [室内]ブロック、お絵かき ままごと など | ○すすんで片づけている姿を認める言葉をかけ、他児への気付きや意欲にもつなげる | | | |
| 9:20 | ◎片づけをする | ●黒板に調理の手順を貼り、身支度できたら自分で確認し見通しがもてるようにする | | | |
| | ・積極的に片づけをする | ○全員が集まるまでは、絵本など見て座って待つように促す | | | |
| | ・片づけずに遊び続けてしまう子もいる | | | | |
| | ◎排泄・手洗いを済ませ、調理の身支度を | | | | |
| | ・三角巾とスマックを身につけながら、調理への期待感を膨らめる | | | | |
| | ・動き回ってしまう子もいる | | | | |

| 時間の 目安 | 子どもの活動・予想される姿 | ○指導者の援助 ●環境構成 | 主により とれる姿 |
|-----------|---|---|---|
| 9 : 4 5 | ◎教師の話聞く <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん先生を知り、お願いのあいさつをする ・やる気をもって、真剣に聞いたり発言したりする ・注意がそれやすい子もいる ・ホールに移動し、手の消毒をする | ○落ち着いた雰囲気の中で話を始める ○手順や約束ごとなどポイントを押さえて問いかけながら再確認をする *机上の作り方を見て、協力して行動すること (タレの味見は、お母さん先生とやること) *包丁を使うとき“猫の手”にすること *火や鍋に注意して、絶対に走らないこと ●手の消毒をホールの見やすい所に置いておく | ④規範意識 ⑥思考力 |
| 9 : 5 5 | ◎グループごと調理を始める <ul style="list-style-type: none"> ・材料や道具を運び、友だちと冬瓜を切ったり、切り方を教え合ったりする ・グツグツ沸騰した泡や調味料に興味をもつ子もいる ◎味噌ダレを作る <ul style="list-style-type: none"> ・味噌と砂糖が同量になるよう友だちと相談しながら、入れたり混ぜたりする ・年中さんが喜ぶ味を考えようとする ◎食べる場所を準備する <ul style="list-style-type: none"> ・用意する物をそれぞれ数えてから、友だちと一緒に運んだり並べたりする | ○ホール内は、火の危険性を伝えながら十分注意して行動できるように見ていく ○ゆでる時間・食べやすさなど考え、大きさを意識して切れるような言葉かけをする ○包丁の扱い方に配慮し、必要に応じて声かけや補助をしながら、自分でできた達成感を感じられるようにする ○子どもの気付いたことやつぶやきを受け止め共感し、他児にも興味や刺激を与えるようにする ●量を入れすぎたり、薄めすぎたりしても対応できるように予備の調味料を用意しておく ○味見をする時、安全面（熱いだし汁を入れる）／衛生面（スプーンの使い回し）などに配慮する ○年中さんに作ってあげたいタレの味がイメージできるような声かけをしていく ●招待する年中さんの名前を書いた紙を渡しておき、数える手立てとなるようにする ○グループで協力したり、自分で気付いて準備を進めたりしている姿を認め、意欲を高める ○数の把握につまずいてもしばらくは見守り、必要に応じて一緒に考えられるような言葉かけをする | ④規範意識 ⑥思考力 ③協同性 ⑥思考力 ⑧数量感覚 ③協同性 ⑧数量感覚 |
| 1 0 : 3 0 | ◎冬瓜をザルにあげる <ul style="list-style-type: none"> ・熱さやにおいを感じながら、出来上がり具合をみようとする ◎年中さん呼びに行く <ul style="list-style-type: none"> ・優しく話しかけたり、手をつないでグループの席に案内する | ●冬瓜をザルにあげたら、鍋とコンロを片づける ●様々な道具を用意しておき、使いたいものを考えたり選んだりしながら活用できるようにする ○年長としての自覚をもち、年中さんに優しく接している姿を認めることで自信がもてるようにする | ③協同性 ⑥思考力 ⑤触れ合い |

資料2 活動場所図（ちどり幼稚園）

《ホール》

※6グループに分かれて行う
(1グループ5名ずつ)



資料3 農園活動年間計画（ちどい幼稚園）

H29年度

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|--------|----|---------------|----|---------|----|------------------|
| 三歳児 | | スイカ苗植え | → | 収穫 | | キャベツ種まき |
| | | メロン苗植え | → | 収穫 | | |
| | | ミニトマト種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| 四歳児 | | キュウリ種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| | | ナス種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| | | 枝豆種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| 五歳児 | | オクラ種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| | | トウモロコシ種まき | → | 収穫 | | |
| | | | → | 玉ねぎ収穫 | | |
| | | 冬瓜種まき | → | 苗植え | → | 収穫 |
| | | | | | | カリフラワー種まき |
| | | | | | | ブロッコリー種まき |
| | | | | | | 白菜種まき |
| なかよし保育 | | | | | | 夏野菜収穫 ※親子収穫体験 |
| 園 | | サツマイモ苗さし | → | | | |
| | | | → | ジャガイモ収穫 | | |
| | | モロヘイヤ種まき | → | 収穫 | | |
| | | 水菜・チンゲン菜種まき | → | 収穫 | | |
| | | 小松菜・ラディッシュ種まき | → | 収穫 | | |
| クッキング | | | | | | 冬瓜味噌汁 |
| | | | | | | 夏野菜のサラダ |

資料4 年長 農園活動年間計画（前期）（ちどり幼稚園）

平成29年度 ちどりっこ
『活動』と

| 月 活動名 | 4 | 5 | 6 |
|----------------------------------|--|--|---|
| おいしい トウモロコシを つくろう | <u>◎農園に種をまこう</u> ・種の色、大きさに興味をもつ⑧ ・種まきを体験し、生長への期待を膨らませる⑦ <u>◎生長を観察しよう</u> ・発芽や苗の生長に気づき、 喜びや驚きを友だちと共感しあう⑦⑨ ・苗が伸びていく様子を自分と背比べして実感していく⑧ ・農園で地域の人に会ったらあいさつをする⑤ | <u>◎生き物対策を考えよう</u> （かかし） ・生き物（カラス・ハクビシン）に ・クラスで話し合ったり、かかし <u>◎生長の変化を探し</u> ・雄花や雌花を発見 ・台風で倒れても立 <u>◎トウ</u> ・生長を | |
| たくさん オクラをつかって みんなに わけよう | <u>◎ポットに種をまこう</u> ・種の色、大きさに興味をもつ⑧ ・適量を考えながら、ポットに土を 入れようとする⑥⑧ <u>◎農園に苗を植えよう</u> ・茎や根があることを知り、 優しく持ちながら植えようとする⑦ | <u>◎生長を観察しよう</u> ・苗の変化に気づき、喜びや驚きを 友だちや教師と共感しあう⑦⑧ ・花のつぼみや色などを知り、興味をもつ⑦ <u>◎草を取って世話をしよう</u> ・生長を楽しみにしながら草取り、 ・草取りに協力してくださる地域の 感謝の気持ちをもったり、お礼を | |
| おおきな 冬瓜を つくろう | <u>◎ポットに種をまこう</u> ・種の色や大きさに興味をもつ⑧ ・適量を考えながら、ポットに土を入れようとする⑥⑧ <u>◎農園に苗を植えよう</u> ・茎や根があることを知り、 優しく持ちながら植えようとする⑦ | <u>◎生長を観察しよう</u> ・実の大きさや固さを ・薄い毛がたくさんつ 友だちや教師に伝え ・つるの伸び方や実の | |
| たくさん 玉ネギを つくろう | → （年中11月に苗植え） | <u>◎たくさん収穫しよう</u> ・収穫できる喜びや達成感を味わう② ・地域の方にもおすそわけをする⑤ | |

農園 《春～夏》 年長
『育ってほしい姿』

7

8

9

・目玉風船・キラキラテープ)

◎自分で収穫しよう

食べられることを知る⑦

・雌花の色や触覚で収穫できるか見極めようとする⑥⑦

などを作ったりする⑥⑨⑩

・採り方を知り、自分で収穫する達成感を味わう②

てみよう

・家に持ち帰り、体験したことを伝えたり家族と一緒に味わったりする

し興味をもつ⑦

①⑤⑨

ち直る力があることを知る⑥⑦

◎作って食べよう〈塩ゆで〉

モロコシの絵を描こう

・友達と喜んで皮むきなどをする⑤⑦

喜び、大きく描くことを楽しむ⑩・おいしく食べたり、おすそわけしたりしてみんなで味わう①

◎たくさん収穫しよう

◎スタンプにして遊ぼう

・様々な大きさや形があることに興味をもつ⑦⑧

・野菜によってスタンプできる形の違いを

・触れるとチクチクすることやかゆいことに気づく⑥⑦

知る⑧

・地域の方にもおすそわけをする⑤

・遊びや制作にスタンプを取り入れて

楽しむ⑦⑩

石拾いなどすすんで世話をする⑦ ◎数えて袋に詰めよう

方を知り、

・オクラを数えながら、数に興味をもつ⑧

したりする④⑤

◎みんなで食べよう〈サラダ〉

・友だちと一緒に味わったり、おいしさを共感し合ったりする①

◎みんなで収穫しよう

知り、興味をもつ⑦

・大きさに喜び、力を合わせて 収穫したり運んだりする

いていることなどを発見し、

②③

ようとする⑥⑦⑨

変化に驚き、観察を楽しむ⑥⑦

◎作って食べよう〈冬瓜汁〉

・包丁で切るなど友だちと調理することを楽しむ③④⑥

・調理をしてくれた人に感謝の気持ちをもつ④

・おいしさを感じることで食への興味が広がる①

◎皮で染め遊びをしよう

・皮で染まる不思議さや面白さを感じる⑥⑦

・ハンカチに出来る模様を楽しみに作ろうとする②⑥⑩

資料4 年長 農園活動年間計画（後期）（ちどり幼稚園）

平成29年度 ちどりっこ
『活動』と『育』

| 月 活動名 | 9 | 10 | 11 |
|------------------------------------|--|----|--|
| おいしい ブロッコリーと カリフラワーを つくろう | <p><u>◎ポットで苗を育てよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生長に必要な栄養があることを知り、苗に栄養を入れていく⑦ ・生長を楽しみにしながら水かけをする⑦ <p><u>◎農園に苗を植えよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を思い出しながら植えようとする⑥ ・春と秋では育てる野菜の違いを知り、季節や四季の変化に気づく⑦ | | <p><u>◎生長を観察しよう◎草を取って</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生長の様子や葉の色、形の違い言葉や動作で伝え合う⑦⑧⑨ ・草取り、石拾いで集めた量を比きれいになる達成感を味わったり ・様々な虫や生き物との関係を知る <p><u>◎虫対策を考えよう〈ネット・薬作</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫が葉を食べることを発見し、自思いをもつ⑦ ・対策を話し合ったり、人の話を聞 |
| おおきな 白菜を つくろう | <p><u>◎ポットで苗を育てよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生長に必要な栄養があることを知り苗に栄養を入れていく⑦ ・生長を楽しみにしながら水かけをする⑦ <p><u>◎農園に苗を植えよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験を思い出しながら植えようとする⑥ ・苗を守るためにもみがらをまくことを知り、友だちと一緒にまく⑦ | | <p><u>◎生長を観察しよう◎草を取って世話を</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉が大きく広がっていくことに驚き、すすんで草取り・石拾いをし、きれいだ達成感を味わう②⑧ ・様々な虫や生き物と野菜の関係を知る |

農園 《秋～冬》 年長
 ってほしい姿』

| | 1 2 | 1 | 2 3 |
|--|---|---|--|
| <p><u>世話をしよう</u> を観察し、 べたり、 する②⑧ ⑥⑦</p> <p>り》 分たちの野菜を守りたいという いて調べたりする③⑥⑨</p> | <p><u>◎みんなで収穫しよう</u> ・カリフラワーとブロッコリーの色や 葉の違いに気づきながら収穫する②⑦ ・家に持ち帰り、体験したことを伝えたり、 家族と一緒に味わったりする①⑤⑨</p> <p><u>◎みんなで食べよう 〈塩ゆで〉</u> ・カリフラワーとブロッコリーの味の違いを知り、おいしくいただく① ・友だちと食べたり、おすそわけしたりしながら食べ物への関心が深まる ①⑤⑨</p> | | <p><u>◎ブロッコリーのわき芽を見つけよう</u> ・わき芽が出ることを知り、 自分で収穫したり、味わったりする①⑦</p> |
| <p><u>しよう</u> 興味をもつ⑥⑦ になる ⑥⑦</p> | <p><u>◎自分で収穫しよう</u> ・白菜の大きさや力強さを感じながら 友だちと協力して収穫する②③⑦ ・地域の方にもおすそわけをする⑤ ・家に持ち帰り、体験したことを伝えたり、 家族と一緒に味わったりする①⑤⑨</p> <p><u>◎作って食べよう 〈お雑煮・味噌汁・漬物〉</u> ・包丁で切るなど友だちと調理することを楽しむ③④⑥ ・調理を手伝ってくれた人に感謝の気持ちをもつ④⑤ ・調理したことで、すすんで食べようとする①</p> | | <p><u>◎花摘みを楽しもう</u> ・花の特性を知り、花の摘みを 楽しむ⑦⑩</p> |

II さくら保育園

1 活動名「のびのびっこ（一緒にあそぼう）」（5歳児 7月）

2 活動時期の子どもの実態

去年の4歳児まで2クラスの少人数で活動していたが、なかなか生活リズムが付きにくい子ども達だった。5歳児になって1クラスになったが、ゆっくりわかりやすく丁寧に保育したことで、リズムよく生活できるようになった。また、色々な活動に興味を持って楽しそうに取り組む姿も見られるようになった。

異年齢交流を5月から始め1週間に一度程度、一緒に過ごすうちに自然と小さな子達に対して「かわいい」「お世話してあげなくちゃ」という気持ちが芽生えてきた。また、一部の子達は異年齢クラスに遊びに行きたい気持ちを持ったり、5歳児から毎日の生活の中で声を掛けたりするようになってきた。



力を合わせて入れようね

3 活動のねらい

- ・異年齢の友達との関わりを深める中で、自分のしたことに、相手が喜んでくれる嬉しさを感じる。
- ・係の仕事を楽しくやり、満足感を味わう。

4 活動の考察

- ・日々の保育の中で異年齢の友達と触れ合う時間を多く持ち、一緒に遊べる環境を設定したことで小さな子も安心し、5歳児も同じ目標をもってゲームに挑戦する姿が見られた。
- ・普段は自分の思いをストレートに言葉にしていた5歳児だが、異年齢児と遊びの積み重ねから小さな子がどのゲームからやりたいのかを優しく聞き、受け入れる気持ちが育っていったと考える。
- ・遊びの設定の中で子ども達に待ち時間を感じさせたくないというゲームをする順序を決めておこうか考えたが、5歳児と小さな子が話し合い5歳児が快く受け入れながら自分の気持ちを調整し、折り合いをつけたことで一緒に遊ぶ楽しさを感じ、最後までやり遂げる姿が見られたと考える。
- ・ゲームの係をした5歳児は、自分の係に責任をもって取り組みながらどうしたら小さな子が楽しめるかを考え、小さな子達が喜んでる姿を見て、満足感や自信をつける出来事となったと考える。



ゲーム（積木あそび）

- ・積み木遊びを繰り返す中で、積み木の数や様々な大きさ、形の違いに気付いた。また、形の面白さや不思議さを感じたことで、どうしたらたくさん積むことができるか一緒に協力し考え工夫することができ、もっとやってみたいという意欲が高まっていったと考える。
- ・集団で遊ぶことによって、保育士や友だちの声に耳を傾けたり、いろいろな異年齢活動を通してルールを守ることも自然に身についたと考える。
- ・活動を通して思いやりの気持ち、責任感、達成感、満足感を体験し、小さな自信を積み重ねたことで、年長児の活動への好奇心や意欲、仲間意識、友達への優しさが大きく育っていることが感じられる。
- ・異年齢の活動をすることで、その年齢にしかできない経験や自らできることを奪ってしまうこともあるので、目標を変えたり、魅力的な活動を見合うことも必要だと考える。それを設定していくことで今後の保育が変わっていくのではないかと考える。

5 指導の留意点

- ・子どもが主体となり活動ができるように、普段は保育士が行う司会なども、子ども達の力で進めていけるように心掛けていきたい。
- ・ゲームの内容やゲームを待つ間も楽しめるようにホール内の配置を考えたり、友だちの応援や期待を高める待機場所の環境構成を工夫したりする。
- ・小さな子にも遊び方がわかるように、年長児に具体的な言葉の掛け方を知らせておき、興味につながるようにしていきたい。
- ・同じ目標をもって一緒に楽しめるゲームを設定する事で、達成感を味わえるようにしていきたい。
- ・安心して取り組めるように、各自に知らせる。
- ・係の仕事を各自に知らせることで、安心して取り組むことができると考える。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|---|
| ① | 健康な心と体 | 目標を持って、ゲームに挑戦する。 |
| ② | 自立心 | 異年齢の友達と協力してゲームをし、達成感を味わう。 |
| ③ | 協同性 | ゲームをする中で、友達や小さな子の応援をする。 |
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | 思い通りにゲームが進められなくても気持ちを切り替え、ルールを守って遊ぶ。 |
| ⑤ | 社会生活との関わり | 異年齢の友達と仲良くする、係の仕事に責任を持って取り組む。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 遊びの中で物の性質に気付く。 |
| ⑦ | 自然との関わり・生命尊重 | 遊びの中で色や数と触れ合う。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 友達や異年齢の友達に自分の思いを伝えようとする。小さな子に対して優しい言葉掛けをする。 |

資料1 指導案（年長）（さくら保育園）

| | | | | | |
|-----|----------------|------|--------|-----|---------------|
| 施設名 | さくら保育園 | 指導者名 | 八木 ゆう子 | | |
| 活動名 | のびのびっこ(一緒に遊ぼう) | ぞう組 | 5 歳児 | 指導日 | 29 年 7 月 12 日 |

| | |
|----------------|---|
| 活動時期の 子どもの姿 | 5才児の生活リズムに慣れ、好きな遊びや仲良しの友達も見つかり、クラスも落ち着き始めている。少しずつ異年齢交流を取り入れるようにしていくと、最初は戸惑い気味の子ども達も活動していく中で異年齢の友達に親しみを持ち始めている。最近では一部の子ではあるが、異年齢クラスへ遊びに行きたがるようになったり、声を掛けたり、遊びの仲間に入ったりして5才児の方から関わろうとしている姿が見られる。 |
|----------------|---|

| | |
|--------|--|
| 活動のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の友達との関わりを深める中で自分のしたいことに相手が喜んでくれる嬉しさを感じる。 ・係の仕事を楽しくやり、満足感を感じる。 |
|--------|--|

| 時間の目安 | 子どもの活動 | ○指導者の援助 ●環境構成 |
|-------|---|---|
| 8:15 | ○登園 ・のびのびっこに期待して、はりきって登園する子がいる。 ・朝の挨拶をする ・視診を受ける ・所持品の始末が出来ず遊び出してしまう子がいる。 | 〈登園〉 ○一人ひとりと挨拶を交わし表情や健康状態を把握する。 ○子ども達が活動に期待している気持ちを受け止めながら朝の受け入れをする。 ○所持品の片付け忘れに気付かせ、丁寧に言うように声掛けしていく。 〈野菜の水かけ・収穫をする〉 ○野菜の世話をしながら、花や実の数、色、匂いなどの違いや変化に気付いたり、自分達で育てた満足感や収穫の喜びを味わう。 〈好きな遊びをする〉 ●遊びが楽しくなるように、必要な物や場を提供し、友達と一緒に試したり、考えたりしてあそぶチャンスを作るようにする。 |
| 8:30 | ○野菜の水かけ、収穫をする ・収穫できる野菜がないか探す子がいる。 ・実の色の変化に気付く子がいる。 ・自ら進んで水かけする子がいる。 | ○友達の思いを言葉で伝え合い、協力して遊びを進めていくとする姿を認めていく。 ○思いが行き違う場面ではどこがどう違うのか、互いの気持ちが理解できるようにしていく。 |
| 8:45 | ○友達と好きな遊びをする ・製作コーナーで思いの物を作ろうとする子がいる。 ・友達と協力してブロックや電車の世界を表現している子がいる。 ・虫や図鑑を見ている子達がいる。 | 〈片付け・トイレ〉 ○積極的に片付けしている姿を認めていく。 ○他にお手伝いできる所はないか気付くような言葉かけをし、再び取り組むことができたことを大いに褒める。 ○グループごとにトイレに誘い、トイレが混雑しないようにする。 |
| 9:10 | ○片付けをする、トイレに行く。 ・自らか片付けをはりきっている子がいる。 ・自らの物が片付いてしまうと見ているだけになってしまう子がいる。 | 〈朝の会〉 ●1日の生活の流れを伝え、見通しを持って生活できるようにする。 ○気持ちの切り替えが苦手な子に対して「○○を見てね」など朝の会に集中できるような声掛けをしていく。 ○クラスの友達と一緒に声を揃えて歌を唄う心地良さを味わえるように、子ども達の気持ちを1つにしてから行うようにする。 |
| 9:30 | ○のびのびっこの準備をする。 ・お手伝いをしたくてはりきっている子がいる。 ・ゲームを期待する子がいる。 ○のびのびっこに参加する。 ・みんなの前でははじめての言葉などを喜んで言う子がいる。 | 〈準備〉 ○保育士と一緒にゲームの準備をし、のびのびっこを期待する。 ○係りの仕事やゲームの遊び方をもう1度確認し、自信をもって取り組めるようにする。 〈ゲームに参加する〉 ○ペアになって欲しい子に対してどう声を掛けるといいのかなどを事前に知らせ、不安な気持ちを持たせないようにしておく。 |

資料2 指導案（年中）（さくら保育園）

| | | | | | |
|-----|----------------|------|-------|-----|---------------|
| 施設名 | さくら保育園 | 指導者名 | 松浦 久美 | | |
| 活動名 | のびのびっこ（一緒に遊ぼう） | きりん組 | 4 歳児 | 指導日 | 29 年 7 月 12 日 |

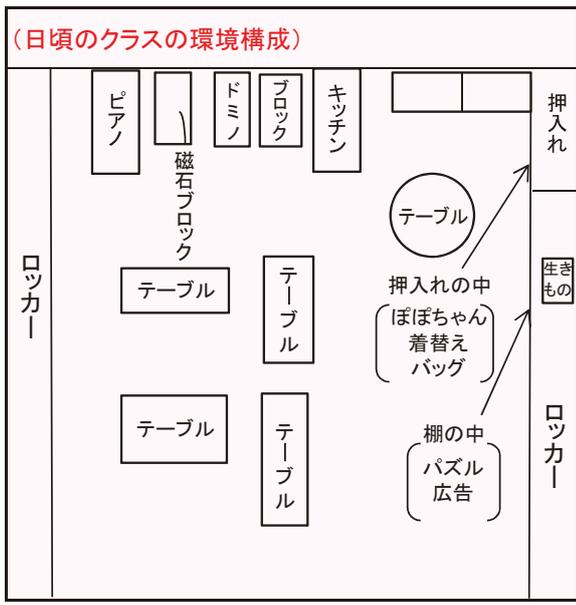
| | |
|----------------|--|
| 活動時期の 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・泥んこになって遊んだり、鉄棒やジャングルジム、三輪車、虫探しなど、それぞれに遊びを楽しんでいる。しかし自分の思いだけで動き、トラブルが起きることもある。保育者が側にいることで安心する子もいるが個々の思いが強すぎて周りの子に目が向かない子が多いと感じている。 ・集会や保育行事で、年長児と一緒に活動することに期待を持ち、喜んで参加するようになり異年齢への関心が出てきている。 |
|----------------|--|

| | |
|--------|---------------------------------|
| 活動のねらい | 異年齢の友だちと一緒に楽しく遊ぶ経験をし、年長児に親しみをもつ |
|--------|---------------------------------|

| 時間の目安 | 子どもの活動 | ○指導者の援助 ●環境構成 |
|-------|---|--|
| 8:15 | <ul style="list-style-type: none"> ○登園時の活動をする <ul style="list-style-type: none"> ・朝のあいさつをする ・視診を受ける ・所持品の始末をする ・母と離れられない子がいる ○好きなあそびをする <ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達とごっこあそびをする ・自分の思うようにいかず、友達とケンカになる | <p>〈 登園時 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●窓を開け、換気をし、空気を入れ替える。扇風機をつける。 ○にこやかにあいさつを交わし、子どもの健康状態や機嫌をよく見て、朝の支度を見守る。 ○子どもが保護者と気持ちよくお別れできるように、いっしょに「いってらっしゃい」の挨拶をする。 <p>〈 遊び 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玩具を使いやすいように整頓して置いておく。 ○気の合う友達との関係をよく見ながら、状況に応じて保育者が仲介し、それぞれの子供が思いを出したり、相手の話を聞いたりできるようにする。言い合い等のトラブルが生じた時には、それぞれの気持ちを聞きながら、互いに思いを出し合えるようにする。また、解決方法を一緒に考えられるようにする。 |
| 9:10 | <ul style="list-style-type: none"> ○片付けをする <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に片付けをする子がいる ・何も片付けなくて、友達と遊ぶ子がいる | <p>〈 片付け 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○頑張って片付けをしている子に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、その姿を認める。 ○協力してくれたら嬉しいなど子どもが意欲が持てるような声掛けをする。 |
| 9:20 | <ul style="list-style-type: none"> ○排泄、手洗いをする | <p>〈 排泄・手洗い 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進んで行う姿を認めていく。 |
| 9:30 | <ul style="list-style-type: none"> ○朝の会をする <ul style="list-style-type: none"> ・イスを持って来て、指定の場所に座る ・待つことが嫌で、席を離れようとする ・当番は前に来て、挨拶・始めの言葉を言う ・1日の流れがわかることで安心をする ・喋り出して、先生の話が分からなくなる ・一度姿勢を直す | <p>〈 朝の会 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○徐々に朝の会に加わるように、手遊びをしながら楽しく待つ。 ○全員が揃ったら、当番さんに朝の会の挨拶をお願いし、自分たちでやる役割に満足感が得られるようにする。 ○呼名をして一人ひとりと顔を合わせ、今日1日の流れを伝え安心できるようにする ○上手に返事ができたことや、座っていたことを褒め認める。 ○今日の予定にのびのびっこがあることを伝え、期待感が持てるよう抑揚をつけて話す。 |
| 9:50 | <ul style="list-style-type: none"> ○のびのびっこ <ul style="list-style-type: none"> ・園歌を自信を持って大声で歌う ・のびのびっこの説明を座って聞く | <p>〈 のびのびっこ 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●元気にうたえるよう、ピアノを子どものリズムに合わせて弾く。 ○話を聞いていない子には、前を向くように声を掛け、ルール説明が伝わるようにする。 |

| | | |
|--|--|--|
| <p>11:00</p> <p>11:10</p> <p>11:20</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・順番を待つため、きりん組に移動する ・自由に席につき、友達と絵を描く ・途中で飽きて、席を離れる ・お絵描き帳をしまい、遊ぶ ・5歳児とペアになってゲームを楽しむ ・どこに回ろうか、2人で決めて列に並ぶ ・積み木:ルールがわかり、前回よりもたくさん3つのタワーを作ろうとする ・魚つり:磁石の不思議に気づく 釣り竿で魚を釣った達成感を味わう ・玉入れ:ペアで何のボールや運ぶ物にするか意見を伝え、協力して玉を入れる喜びを味わう ・うまくできずに、泣いてしまう子がいる ・やる気を持ち、意欲的に取り組む ・ペアと一緒にきりん組へ移動する ・ふれあい遊びをする ○ホールへ移動する ・お店屋さんをやってくれた子やペアの子を見てお礼の挨拶をする ○排泄、手洗いをする ・友達と楽しかったことを会話しながらトイレに行き、手を洗う ○食事をする ・給食の準備をする ・席に座り、順番におかずを取りに行く ・挨拶をして食べる | <ul style="list-style-type: none"> ○2人組になり、きりん組へ連れて行く。3、5才が終わるまで、お絵描きをして待つように伝える。 ○一人ひとりの表情を観察し、楽しんでいるか、困っている子はいないか気をつけ、声を掛ける。 ●うさぎ組の様子を気かけながら、リストバンドの準備をし、片付けた子に配る。 ○勢いがありすぎて走ってしまう子や、順番に迷っている子がいたら危険を知らせたり、どこから並ぶとよいかわかりやすく伝える。 ○横断歩道という身近な交通ルールに興味を持ち、守って歩いているか、見守ったり、知らせたりする。 ○5ペア程終わったらきりん組に誘導する。 ○ペアの子と親近感が持てるようにふれあいあそびを提案する。 ○人数が増えてきたら年長児に、手あそびを4才児に教えてほしいことを伝え、前に出てやりたい人を集め、皆で楽しみ、つながりが広がっていく姿を大切にします。 ○みんなで輪になり、「むすんでひらいて」を行い、最後のペアもふれあいあそびが楽しめるようにする。 ○ペアの子と一列に並ぶように声を掛ける。 ○お店屋さんをしてくれた子やペアの子に感謝の気持ちを伝える。 <p><排泄・手洗い></p> <ul style="list-style-type: none"> ○できるだけ、自分で身支度や後始末ができるように見守り、必要に応じて援助する。 <p><食事></p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの食事のスピードを見ながら、声を掛けたり、量を調節したりして、完食した気持ちが味わえるようにする。 |
|--|--|--|

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>評価の視点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのゲームで、ペアの子と協力し、一緒に楽しむ事が出来ていたか。 ・ふれあい遊びでは、ペアの子や異年齢児と遊ぶ面白さを感じることができていたか。 |
| <p>主に よみとれる 育ててほしい姿</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%; text-align: center;">① 健康な心と体 <li style="width: 33%; text-align: center;">② 自立心 <li style="width: 33%; text-align: center;">③ 協同性 <li style="width: 33%; text-align: center;">④ 道徳性・規範意識の芽生え <li style="width: 33%; text-align: center;">⑤ 社会生活との関わり <li style="width: 33%; text-align: center;">⑥ 思考力の芽生え <li style="width: 33%; text-align: center;">⑦ 自然との関わり・生命尊重 <li style="width: 33%; text-align: center;">⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 <li style="width: 33%; text-align: center;">⑨ 言葉による伝え合い <li style="width: 33%; text-align: center;">⑩ 豊かな感性と表現 |



(日頃の様子(室内・園庭の遊び))

< 室内あそび >
 ままごとや、ブロック、磁石などいろいろな種類の玩具を用意し、好きなあそびを選べるようにしている。男女問わず気の合う友達と同じ遊びをし、できあがった物を職員に見せたり、遊びを発展させたり楽しむ姿が見られる。

< 戸外あそび >
 三輪車や鉄棒、ジャングルジム、鬼ごっこなど友達と一緒に体を動かして遊ぶことが好きである。泥んこ遊びをやり始めた日には砂や水、泥んこの感触を楽しみ、友達と協力し合って山や川を作り、皆で泥んこまみれになり、ダイナミックに遊ぶ姿も見られた。

資料3 指導案（年少）（さくら保育園）

| | | | | | |
|-----|---------------------|------|-------|-----|---------------|
| 施設名 | さくら保育園 | 指導者名 | 塚本 美樹 | | |
| 活動名 | のびのびっこ (一緒にあそぼう) | うさぎ組 | 3 歳児 | 指導日 | 29 年 7 月 12 日 |

| | |
|----------------|---|
| 活動時期の 子どもの姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・園生活の流れが少しずつ分かり、保育者と一緒に簡単な身の回りのことを自分でしようとする。保育者の身近にいる友達と同じ場で遊んだり「貸して」「入れて」「ありがとう」など遊びに必要な言葉を知らせている。 ・クラスで飼っている生き物の世話やエサやりや毎日年長児が来てくれることを喜んでいる。時計屋さんごっこやフィンガーペインティングなどの異年齢交流を経験してから年長児に親しみをもち、一緒に遊びたいという気持ちが高まっている。 |
|----------------|---|

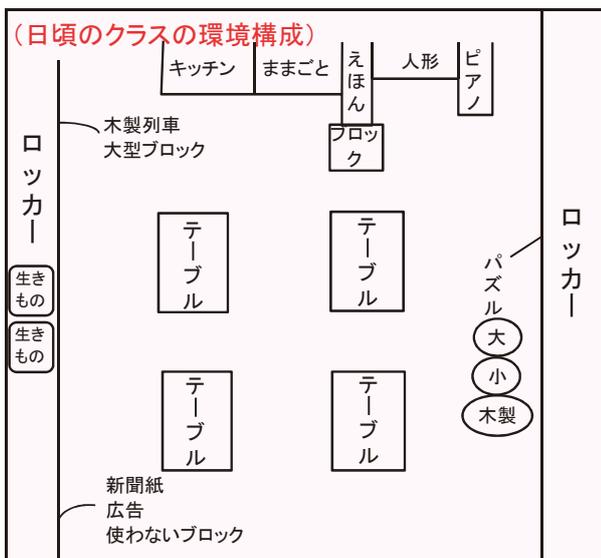
| | |
|--------|----------------------------------|
| 活動のねらい | 異年齢の友達と関わる楽しさに気付き、一緒に活動することを楽しむ。 |
|--------|----------------------------------|

| 時間の目安 | 子どもの姿 | ○指導者の援助 ●環境構成 |
|-------|--|---|
| 8:15 | <p>○順次登園する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に元気に朝の挨拶をし、家の人と所持品の始末をする。 ・朝の離れが悪く保育者に抱っこしてもらう。 <p>○室内遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に元気に朝の挨拶をし、家の人と所持品の始末をする。 ・朝の離れが悪く保育者に抱っこしてもらう。 ・ごっこ遊び、ブロック、パズル、絵本など自由に玩具を選んで好きな遊びをする。 ・保育者にくっついて遊びを見つけられなかったり、玩具の取り合いになる子もいる。 <p>○片付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に片付ける子と遊び続けている子といる <p>○排泄、手洗いをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の声掛けや援助により自分でしようとする。 ・手洗いを進んでする。 <p>○朝の会に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の席に椅子を持って来て座る。 ・保育者の話を聞いたり、元気よくうたを歌う。 ・話を聞いていなかったり、歌わずにおしゃべりしている子もいる。 | <p>〈 登園時 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●室内の空気を入れ替える。 ○一人ひとりの子どもと元気よく挨拶を交わし、温かく迎え入れる。又、家庭の連絡を受けたり、十分に視診し、丁寧に声を掛けながら少しずつ遊びに気持ちが向くようにする。 ○所持品の始末は必要に応じて手助けしたり励ましたりし、自分でしようとする気持ちを育てる。 <p>〈 遊び 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●玩具の用意をする。 ○遊びを見つけられない子には声掛けをして見つけられるよう援助する。 ○友だちと一緒に遊びたいという気持ちを受け止め、保育者が誘ったり、友達との関わり方を伝え遊びに入れるきっかけをつくっていく。 ○トラブルになった時は互いの気持ちを十分に受け止め自分の気持ちを伝えられるように働きかける。 <p>〈 片付け 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども達と一緒に片づけをしながら、きれいに片付いたことの気持ち良さを味わえるようにする。 <p>〈 排泄・手洗い 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自発的にトイレに行けるように促し、感染症を防ぐためしっかり手洗い、うがいをしよう声掛けなどを行う。 <p>〈 朝の会 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた雰囲気の中で、今日の活動をわかりやすく伝える。 ○みんなで歌を歌う楽しさや声を出す心地良さを味わえるようにする。 |

| | |
|--|---|
| <p>○のびのびっこに参加する。 ・年長児が迎えに来てペアになる事を喜ぶ ・積木、魚釣り、玉入れを年長児と一緒に楽しむ ・初めてのことに不安な表情になる子もいる。 ・各々のゲームが終わり次第シールを貼ってもらい全て終えたペアは部屋に戻り手遊びをして楽しむ。 ・全員揃ったところで終わりの挨拶をし、次回また一緒に遊べることを楽しみにする。</p> <p>○シャワーを浴びて着替える。 (雨天時:汗を拭いて着替える) ・シャワーを浴びて気持ち良さを感じる ・自分から進んで着替えたり、保育者に手伝ってもらいながら着替える。</p> <p>・排泄・手洗いうがいをする。 ・給食の準備をして給食を食べる。 ・いただきます、ごちそうさまのあいさつをして楽しい雰囲気の中で食事をする。</p> | <p>〈のびのびっこ〉 ●ホール内の温度調節を行い、快適に過ごせるようにする。 子ども達が移動しやすかったり楽しめるような配置をする。 ○安全に配慮しながら自然な流れの中で年長児との関わり寄り添える雰囲気から始めていく。 ○じっくりと楽しめるように遊びの環境を整え、年長児との遊びを楽しむ様子を見守る。 ○不安になってしまう子には側につき安心して楽しめるようにする。 ○子ども達の表情を見たり、つぶやきに耳を傾け、次回の異年齢交流も楽しみにするような声かけをする。</p> <p>〈着替え〉 ●子どもがわかりやすいようにタオルや着替えなどの場所をいつも同じように設定する。 ○自分でしようとする姿を見守りながら難しいところは知らせて一緒にしていく。 ○汗を流し着替えることで、気持ちよさを共感する。</p> <p>〈食事〉 ●テーブルをきれいに拭き配膳する。 ○残さずきれいに食べることやマナーの大切さを伝える。</p> |
|--|---|

評価の視点 異年齢児と同じ遊びをする中で、異年齢児と関わり一緒に楽しむことができたか。

| | |
|-------------------------------------|--|
| <p>主に よみとれる 育てほし い姿</p> | <p>① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性</p> <p>④ 道徳性・規範意識の芽生え ⑤ 社会生活との関わり ⑥ 思考力の芽生え</p> <p>⑦ 自然との関わり・生命尊重 ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>⑨ 言葉による伝え合い ⑩ 豊かな感性と表現</p> |
|-------------------------------------|--|



(日頃の様子(室内・園庭の遊び))

〈室内あそび〉
 ブロック遊びは自分の好きなものがいろいろできて楽しさを味わっている。ごっこ遊びでは自分達で道具を出してきて、保育者も加わりながら役になりきって楽しさを共有し関係づくりをしている。パズル、木製列車を友達同士で考えながら楽しむ姿も見られる。

〈戸外あそび〉
 三輪車やすべり台、ジャングルジムなど各々好きなところへ行って遊びを楽しんでいる。保育者と虫探しや花摘みをしたり、泥んこや花びらなどを使ったジュース作りも楽しんでいる。また水や土の感触も楽しみ裸足になって開放的に遊んでいる。

Ⅲ ひばり幼稚園

1 活動名「身近な自然を楽しむ～まつぼっくりのツリーを作ろう～」（5歳児 12月）

2 活動時期の子どもの実態

二学期に、運動会や発表会を経験し、みんなでひとつの目標に向かい協力してやり遂げる喜びを感じたり、毎日の遊びを通して、遊びの内容が豊かになり、何人かのグループで、互いに考えたり工夫して遊びを楽しむ姿が見られ、友達とのつながりが深まってきている。

夏から秋へ、秋から冬へ季節の変わるこの時期、様々な自然に触れ、身近な自然物を遊びに取り入れる姿も見られ、どんぐりや落ち葉などあそびの中に活かし、自分達の遊びを展開する姿があった。

3 活動のねらい

園外に散歩（まつぼっくり拾い）に出かけることで、秋の自然に触れ、自然の変化を十分に感じてほしいと思う。そして、自分達で見つけた自然物を利用し、想像力豊かに、自分なりに考えたり、工夫したりすることで、作る楽しさや喜び、できたときの達成感を味わうことをねらいとする。

また、自分の分だけでなく、来年度入園する小さい友だちにプレゼントすることで、相手を思いやる心や他人のことを考える気持ちを養いたいと思う。



1. 2. 3. 4. 5. …どれがおおきいかな

4 活動の考察

秋の自然を見付けに園外に散歩に出掛けた。子ども達は、近所の人達と挨拶を交わしたり、声をかけてもらったり、地域の人とのかかわりが見られた。2人組で手を繋ぎ、友達との会話も楽しんでいる様子が何え、横断歩道では、交通ルールを守り車に気を付けて歩く姿が見られた。

松林の遊歩道では、葉の色が赤や黄色に変化していることに気付いたり、落ち葉の下に隠れている虫を探す姿も見られた。



どこにつけようかな

子ども達は、互いに拾ったまつぼっくりを比べ、形や大きさの違いに気付いたり、何個見つけたか数を数えて友達と競い合ったりする姿が見られた。製作活動においては、まつぼっくりのツリーを作るにはどうしたらいいのか、何が必要なのかななどを子ども達と考え、開いたかさの1枚1枚に絵の具で色を塗り、ビーズなどで装飾してゆくことを決め、取り組んだ。思い思いのツリーを作ることに、子ども達は、とて

も集中して取り組み、互いのツリーを見て認め合ったり、完成した際には、喜びや達成感を味わったりしているようだった。また、「小さい子、喜んでくれるかな。」の声も聞かれ、新入園児を思う温かい気持ちも感じられた。

5 指導の留意点

園外に出掛けた際は、子ども達と交通ルールの再確認をすることで、正しい交通ルールが身に付くよう、言葉がけをしていた。保育者自身も地域の人に進んで挨拶をしたり言葉を交わし、子ども達が社会とのかかわりを大切にできるよう配慮した。遊歩道では、自然の変化や自然物に目を向けて気付いた子ども達の驚きや喜び、発見を見逃さないよう子ども達の声に耳を傾け、また、子ども達の発見を他の子ども達に伝えていた。

ツリーの作り方は、子ども達と共に考えていったが、保育者が作り方を決めてしまうのではなく、子ども達からのアイディアを待ち、活動が進められるよう援助していった。子ども達が、想像力豊かに考え工夫して取り組めるように、ツリーの装飾に使えるような様々な材料を用意し、また、保育室に、クリスマスツリーを飾ったり、クリスマスの絵本を読み聞かせたりしながら、子ども達が、イメージを膨らませ、創作意欲が高まるよう配慮した。

来年度入園する小さい友達のことも伝え、話すことで、心を込めて、丁寧に製作できるように言葉がけをした。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|---|
| ② | 自立心 | 自分達で考え工夫して製作することで、喜びや達成感を味わう。 |
| ③ | 協同性 | 互いのアイディアを認め合う。 |
| ⑤ | 社会生活との関わり | 散歩へ出かけ、地域の人と挨拶や会話をすることで地域社会とのかかわりを持つ。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 自分達で考えを出し合って作り方を決めることで、自分の考えを友達に伝えたり、話し合ったりして互いに理解する。 |
| ⑦ | 自然との関わり・生命尊重 | 季節の移り変わりに気付く。自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | まっぼっくりの大きさや形の違いに気付いたり、数を数えたりする。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 自分の思ったこと感じたことを相手に伝える。 |
| ⑩ | 豊かな感性と表現 | イメージしたものを自分なりに工夫して作ろうとする。 |

IV さゆり保育園

1 活動名「運動遊び（爆弾ボールゲーム）」（3歳児 10月）

2 活動時期の子どもの実態

とても元気な子ども達。戸外に出ると、固定遊具や砂場遊びでよく遊ぶ。ブランコは一人でこげる子も増えてきて、保育士が背中を押そうとすると『自分でできる!』とやれる事が自信になっている。体を動かす活動（遊び）を好む子が多く、友達との関わり



オーライ、まかせて!

も増してきて、戸外で鬼ごっこやかくれんぼを友達や保育士と一緒に楽しむようになる。自由遊びで年中児があそんでいる爆弾ボールゲームに入れてもらい喜ぶ姿が見られる。しかし、全く違う方向にボールを投げたり、円の中に入ってボールを取りにいってしまったたり、ルールはまだわかっていない。

3 活動のねらい

- ・爆弾ボールゲームの遊び方を知り、ルールを守って遊ぶ。
- ・いろいろな動きをする中で体力をつけたり、機敏性を養う。
- ・友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

4 活動の考察

始めはボールをゆっくり転がすことにより、苦手意識が減り、参加しやすくなることで、みんなで体を動かして遊ぶことができた。年中児に加わって遊んだ経験や年齢に合った簡単なゲームであったこともあり、ルールを守って遊べた。さらに保育士が少し早めにボールを転がして単調にならないようにするとドキドキ感が増し、遊びが盛り上がった。



行くよー、逃げて!

次に子ども達がボールを転がしてみると、保育士の真似をしてボールを投げたり、友達に当てようと転がす子もいた。

「中に入っちゃ駄目なんだよ」「取りっこしないで一緒に投げれば？」など子ども達が考えたことを言葉にして伝え合うことでスムーズにゲームを進めたり、遊びを一緒に楽しむ姿が育ってきていると感じた。

5 指導の留意点

- ・ボール活動の前に、体操や園庭を一周走り、体をほぐして怪我を防止する。
- ・参加人数に合わせて、十分に動ける広さの円を作っておく。
- ・保育士がボールを投げたり、転がしたりスピードを変えたり等、いろいろな投げ方をする事で、より当たりやすいことに気付かせる。
- ・ルールを覚えたことで、異年齢児との遊びにつなげていきたい。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|--------------|----------------------------|
| ① | 健康な心と体 | ボールを使って思い切り体を動かして遊ぶ。 |
| ③ | 協同性 | 友達と一緒に遊ぶ楽しさを知る。 |
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | ルールがあり、守ることで遊びが面白くなることを知る。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | どうすれば当てられるかを考えて投げようとする。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。 |

V すみれ保育園

1 活動名「合同壁面製作」 (5歳児 12月)

2 活動時期の子どもの実態

発表会を経験し、やり遂げた達成感から色々な事に意欲的に参加するようになった。他クラスの演目を発表前に見学したことで異年齢児に対する関心も高まってきている姿がよく見られる。一緒に自然物を集めようと目的を持って公園に散歩に行った際には、どんぐりや木の実、葉っぱ、枝など自分の好みの物を一人ひとりが集めてきて、遊びに使ったりしている。そんな中で、クリスマスの楽しい雰囲気も味わっていただけるように、4歳児と同じ時間、同じ場所で一緒に自然物を使ったクリスマスの壁面製作に取り組んだ。



3 活動のねらい

季節の行事に期待を持ちながら、イメージした物を色々な素材を使って作る事を楽しめるようにした。また、異年齢児と一緒にいることで、つながりを深め、アイデアをもらったり、出したりできるようにした。

4 活動の考察

目的を持って一緒に散歩に出かけ、同じ場所で自然物を拾い、それを使って一緒に壁面製作をするという遊びの一連の流れは、連続していることで見通しが持て、子ども達の意欲も高かった。散歩では、異年齢児で手をつなぎ、互いに気をつけ転ばないように歩く、横断歩道や信号などを渡る際に、「止まる→車の確認をする→手を上げる→渡る」という流れも身につけていた。

自分達が拾ってきた物で製作する事は、子どもの自主性が育つきっかけにもなったと思う。今まで子ども達は、合同の製作の体験をほとんどしてこなかったが、実際や



ってみると、年長児がアイデアを出すだけでなく、年中児がやった事を年長児がひと工夫してやってみたり、「ここ、立たせたいんだよね～」と言った子に、周りの子がアドバイスをくれたりしたことにより達成感を味わい、より良い物を作り上げていく姿がたくさん見られた。「この色は、違うんだよね～」と自分が使いたい物を選びと選んだり、同じ木の実を使っても「ちょっと大きいね。」「色が違うよ。」と比べあつたりする姿も見られた。子ども達は自分達で色々な発見をして、楽しむ事ができる力を持っているんだ、と感じた。

5 指導の留意点

- ・散歩に出かけ、自然物を拾う際には、葉の色や形、木の実の大きさや量など、子どもの気づきや驚きに耳を傾け、共感したり、違いにも気づいて行けるよう言葉をかけていく。
- ・拾った落ち葉や木の実などの自然物は、ままごとあそびや図鑑を見ながら観察できる

- ように、形や色、大きさで分けて、テーブルの上に置いておく。
- ・製作の際は、子どものイメージを大切にし、子どもが使った物や貼り方などを全体に紹介し、アイデアがたくさん出てくるようにする。それに伴い、必要な材料の提供をする。
 - ・子ども同士の関わりを見守り、友達と一緒に作っていく中で、言葉のやり取りを楽しめるようにする。
 - ・天気の良い日には、園外に出て、のびのびと体を動かす機会を作る。
 - ・散歩時に道路や信号を渡る際には、子どもと一緒に車が来ていないかの確認をして、車に気をつける習慣が身に付くようにする。
 - ・行き交う人と挨拶を交わし、地域の人とのつながりを持てるようにする。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|--|
| ① | 健康な心と体 | 散歩に出かけることで、健康を維持できる体を作る。 |
| ② | 自立心 | 自分達が拾ってきた物を使って製作を行い、工夫したり考えたりする。 |
| ③ | 協同性 | 子ども同士でアイデアを出し合って製作する。 |
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | 散歩では交通ルールを守ること、製作では接着剤の使い方を経験する。 |
| ⑤ | 社会生活との関わり | 他クラスの子どもと積極的に関わりながら、相手の気持ちを考えて行動する。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | どうすれば、より良く作れるか、何を使って作るかを自分で考えている。 |
| ⑦ | 自然との関わり・生命尊重 | 秋の自然物を使い、自然に親しみや興味を持つことができる。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 製作しながらどんぐりや葉っぱの大きさ、形、数、色を比べ、違いに気づく。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 互いの作品を見合って感想を言い合う事で気持ちを伝えあう。 |
| ⑩ | 豊かな感性と表現 | 色々な素材を使って、クリスマスの飾りを作る事で、かわいい物、かっこいい物、きれいな物など作りたい物を自由に表現する。 |

VI わかば保育園

1 活動名「ぼくたちのまちをつくらう！」（5歳児 11月）

2 活動時期の子どもの実態

10月の運動会を通し、友達と力を合わせ協力する楽しさを知りクラスでまとまってきたように思う。友達の姿を見て気持ちを考えて行動する姿が増え、些細なトラブルも子ども同士で解決できるようになる。遊びの中でも集団での遊びを好み、戸外ではドッジボールや鬼ごっこ室内では大型積み木を使った秘密基地づくりなどがブームである。

毎月の製作活動にも個人作業だけでなく友達との共同作業で楽しく無理なく作りたいと思い、いつもの製作活動を改めた。内容も子ども達に自分の住む町を身近に感じてもらうと、町づくりにしてみる。



どうやって作ろうか？つなげてみよう

3 活動のねらい

- ・友達と話をしていく中で、イメージを発展させ、協力して遊びが広がる楽しさを知る。
- ・自分の住んでいる町を意識して見る、知る。身近な文字、標識に興味を持つ。
- ・友達と協力して作る楽しさや一つの作品が完成する喜びを感じる。

4 活動の考察

いつもは製作活動に消極的な子も見本を示し、一人ひとりの作品がつながって大きな町になっていくことが分かると目を輝かせ「やりたい！」と意欲的に取り組む姿が見られた。町にはどんなものがあるか、道路はどうなっているか等みんなで話し合いをする。たくさんの店の名前や道路にある標識、白線、人物など話し合いはかなり盛り上がり、子ども達の出した意見を全てホワイトボードに書き出すと自分の作りたい街のイメージが膨らんだようだ。



みんなの町ができたよ

製作は好きな場所で好きな友達と一緒に自由に始め、保育者は豊富な材料を提供する。友達と話し合っ作る子や「お店の看板作りたいからひらがなのお手本書いて」と保育者に教わりながら文字を書く子、登降園時に通る道路を再現しようと丁寧に作業する子、姿はいろいろだがいつもの製作時のように保育者が指示を出すことがないの子ども達のペースで自発的にどうし

しようか考え、取り組むことができた。友だちの作っているものにも興味を示し互いに見せ合う子もいた。クラス全員の作品をつなげて貼ると大きな町が出来、自分の作品を説明したり友達のを褒めたり、皆のものが一つになっていることを喜びしばらく眺めていたり、満足いく作品が出来たようだ。

今回は平面での作品で地図のようなものが出来たので、今後は空き箱等廃材を使って立体の家や車を作り発展させていこうと考えている。

5 指導の留意点

- ・園外に散歩に出かけ自分の住む町や道路、標識にどんなものがあるかを知る。また図鑑などを用意する。
- ・子ども達が自由にイメージ通り作れるよう材料を豊富に用意するとともに子どもの問いかけに対して保育者が言葉かけをする。
- ・子ども達から上がった意見をホワイトボードに書き出すことにより、より深くイメージを引き出せるようにしていき友達とイメージを共有出来るようにしていく。保育者も一緒に子ども達の話し合いに加わり、自分でイメージを伝えにくい子には代弁したり、気持ちをくみ取っていく。
- ・豊富な素材の中から自分のイメージに合った素材を選ぶことで子ども達の製作意欲も高まり、自由にイメージ通り作れるようになると思う。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|-------------------------------------|
| ② | 自立心 | 友達と協力し合い一つの作品が出来上がったことで満足感や達成感を味わう。 |
| ③ | 協同性 | 友達とイメージを共有して作ることを楽しむ。 |
| ⑤ | 社会生活との関わり | 自分の住んでいる町に興味関心を持つ。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 自分の考えを言葉で表現したり、友達と話し合ったりする。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 身近な文字、標識等に興味を持つ。書いてみようとする。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 友達と考え、伝え合い遊びを発展させていく。 |
| ⑩ | 豊かな感性と表現 | 自分で考えたことを自分なりに工夫して作ろうとする。 |

Ⅶ こども発達支援事業所

1 活動名「お店屋さん」 (5歳児 11月)

2 活動時期の子どもの実態

夏頃より画用紙の切れ端などを使い、虫やお化け、ゾンビなどのお面を作り、“ごっこ遊び”を友達と楽しんでいた。時々、3、4歳児クラスの子も達がお面に興味を示し見に来ることがあった。そこで、子ども達はお面をつけたまま追いかけたり、脅かしたりしていた。また、同じようにお面を作ってあげることがあり、自ら関わる姿も見られた。このように日々の活動や遊びを通し、友達との関わり方を知り一つの遊びを数人の友達と楽しむ姿が見られるようになってきた。



小枝・どんぐり・松ぼっくり・ビーズなどをトッピングしたケーキ作り

3 活動のねらい

- ・色々な素材に興味・関心を持ち、イメージを膨らませ作る楽しさを味わう。
- ・お店屋さんを開き、異年齢児との交流を深める。
- ・お店屋さんで使うお金を作る事により、数字に興味・関心を持つ。
- ・お店さんの活動を通して、友達と協力してやり遂げる達成感を味わう。

4 活動の考察

普段あまり使わない色々な素材と散歩時に拾った自然物を用意すると、たこやきやカップケーキ、パフェなど子ども達の発想が詰まった作品を次々と作る姿が見られ、素材に関心を持ち、イメージを膨らませる様子がうかがえた。

お店屋さんで使うお金を作ると「お釣りはあげていいの？」などとお金のやり取りの



どれにしますか？これですね
小さい子とのやり取りの姿

仕方に興味を持つ子が見られた。当日は、小さい子達に「これはどうですか？」など声をかけたり、お財布からお金を一生懸命だしている子を待つ優しい姿も見られた。小さい子達から「ありがとう。「楽しかった。」という言葉をかけてもらおうと、誇らし気な表情が見られ、また、一つの目的に向かってやり遂げたという安堵の表情が見られた。

この経験を通し、戸外では鬼ごっこなどをクラス全員で楽しむ姿が見られるようになり、友達とのつながりも深

まったように感じる。

5 指導の留意点

- ・どんなお店屋さんにしたいか話し合うことで、お店屋さんのイメージが少しでも持てるように配慮した。
- ・散歩に出掛け、自分達で使う素材集めをすることで、作品を作る楽しみが持てるようにした。
- ・友達と作品を見せ合ったり、保育者のアドバイスや声掛けをすることでイメージを広げ、次の作品に繋げていけるようにした。
- ・書くことが苦手な子どもも多いので、お店屋さんで使うお金を作ることで数字に親しめるようにした。
- ・お店屋さんでは、一人ひとりが小さい子と関わりが持てるように子ども達と話し合い、係を決めた。また、自分の役割をやり通せるように必要に応じて声掛けをした。
- ・お店屋さんを終えてからは、頑張ったことや、楽しかったことを話し合い、やり遂げた喜びを分かち合えるようにした。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|---|
| ① | 健康な心と体 | 意欲的に取り組もうとする心を持つ。 |
| ② | 自立心 | どんな物を作ろうか考えたり、工夫したりして、最後まで諦めないでやり遂げる。 |
| ③ | 協同性 | “お店屋さん”という1つの活動に向けて、友達と協力をして作っていく楽しさや充実感を味わう。 |
| ⑤ | 社会生活との関わり | お店の仕組みに興味・関心を持つ。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 色々な素材を使って作品のイメージを膨らませ作ることを楽しむ。 |
| ⑦ | 自然との関わり・生命尊重 | 散歩に出掛け季節の変化を感じたり、拾った自然物を使って作品を作ったりする。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | お金を作ることで数字を書いたり、お金を数えたりすることで数字に興味・関心をもつ。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 自分が疑問に思ったことを言葉にして伝えたり、小さい子に対して優しい言葉を掛けたりする。 |
| ⑩ | 豊かな感性と表現 | イメージした物を色々な素材を使って自分なりに工夫して作る。工夫したことや、思ったことを友達や保育者に言葉で伝える。 |

Ⅷ 住吉小学校

1 活動名「お話玉手箱（読み聞かせ）」（6・7歳児 4月～）

2 活動時期の子どもの実態

4月当初から子ども達は教師や地域のボランティアによる読み聞かせを楽しみにしている。読み聞かせの日は、自分たちで机を下げ、読み聞かせをする体制で待っている姿が見られる。読み聞かせが始まると静かになり、本の世界へ入り込んでいく。4月当初から集中して読み聞かせを聞くことができた。短い話の本を何冊も読んでもらい、子ども達は喜んでいました。



3 活動のねらい

読み聞かせを行うことで、実際に体験できないことをイメージを膨らめて、豊かな心を育てていきたいと思う。話の世界に入り込むことで、想像力を養う。また、読み聞かせを集中して聞くことで、集中力や聞く力が身についていくことを期待する。

豊かな心を育てていきたいと思う。話の世界に入り込むことで、想像力を養う。また、読み聞かせを集中して聞くことで、集中力や聞く力が身についていくことを期待する。

4 活動の考察

4月当初は、短い話やシンプルな内容の本を何冊か読んでもらった。読み手がページをゆっくりめくったり、一文字一文字を意識して読んだりすることで、話の世界に入り込むことができた。また、子どもの年齢に合った絵や内容の絵本を選んだ時は、ページをめくる度に「〇〇が描いてある！」と口々に話したり、絵に魅入ったりしている姿が見られた。

二学期に入ると、一学期よりも少し長い話の本でも集中して聞き入っていた。その姿から、話の中に入り込み、自分が主人公になってお話を楽しむ様子が伺える。二学期になると登場人物が複数出てくる物語教材が始まっているため、登場人物が複数出て関わり合う複雑なストーリーを読み聞かせた。繰り返しの場面があるお話を read したときは、次の展開を想像して楽しむ姿がみられた。子ども達は、物語の展開を楽しみながら、表情豊かに様々な反応を見せた。本を選ぶときに、一年生が興味をもちそうな本を選書することで、15分間集中して聞く力が身についてきている。



読み聞かせが終わった後は、登場人物の台詞や言い方を真似して友達と楽しんでいた。言葉の面白さを感じていることが分かる。『イソップ童話』を読んだときは、昔話から感じた戒めを、生活の中で同じようなことをしている友達に対して「それじゃ、犬と一緒に欲張るとだめだよ。」と声をかけている姿が見られた。

読み聞かせて読んでもらった本を自分で読もうとしたり、各クラスで学校図書館に行って本を借りたりするなど、本を身近に感じ、本と親しむ子どもが育っていると思う。

5 指導の留意点

(1) 発達段階の考慮

入学当初の子ども達は、字が読めても、楽に本が読めるわけではない。しかし、この時期の子ども達は、言葉の数や使いこなす力がどんどん伸びてく。耳からお話が入っていくように、ゆっくりとページをめくったり読んだりする必要がある。

(2) 選書

本を選ぶときは、児童の実態や教科・行事・季節との関係を考えながら選ぶ。年齢に合った良書（じんわり心にしみわたるような本）を選ぶことで、子ども達の心を育み、お話を聞きたいという意欲を生む。

子どもの実態に合わせて、文章量と絵のバランスを考えるとともに、発達段階に考慮して選ぶ。

(3) 教師・ボランティア

読み聞かせをした後は、感想を無理に聞くのではなく、子ども達が自然と感想を伝え合えるように余韻を残す。

子どもによっては、文字が読める子もいるが、たどたどしく読むとおもしろさを十分に捉えることはできない。話の面白さを知っている大人がくり返し読み聞かせることで、話の面白さを感じ取る力を身に付けることができる。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|--|
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | 読み聞かせでイメージを膨らませ、どのような言動が危険で人を傷つけてしまうか、何をしたら「相手」に迷惑がかかってしまうか理解する。 |
| ⑥ | 思考力の芽生え | 読み聞かせ中は、自由に反応をする。 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | お話に出てきた言葉や感情を理解し、新しい言葉を獲得していく。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | 読み聞かせが終わった後、自然と友達同士で感じたことを伝え合う。 |
| ⑩ | 豊かな感性と表現 | 心に響くお話や心から楽しめるお話などを聞いたり読んだりして、自分の心を育むことができるようにする。 |

Ⅸ 中央小学校

1 活動名「給食当番、さつまいもパーティー」 (7歳児 通年)

2 活動時期の子どもの実態

小学校に入学し、子ども達が不安に思うことの一つが給食である。保育所や幼稚園と比べ、時間が短い、量が多い、また自分たちでよそって配膳することで慣れるのに時間を要する。食に親しむために、さつまいもを植え、担任と一緒に収穫して食べたり、教師の声かけのもと、量を調節して完食する経験をしたりすることで、少しずつ不安感が減ってきている。また、当番を決めペアや友だちと協力することで責任感が養われ、担任の声かけがなくても自分から動く様子がみられる。



残さず食べられた様子
だんだんと残量が減っていきました。

3 活動のねらい

教師は子どもたちが元気に登校し、自ら動いて主体的に行動することを願っている。そのため、子どもの話に耳を傾け、子どもが何を思っているかを把握するよう努める。



JAの方に教わりながらサツマイモの苗植えの様子
教わりながら植えることができました

子ども達がJAの人に教わりながらさつまいもを植えることで成長を楽しみにすると共に食べることの喜びを味わわせようとする。また、子ども達の責任感を養うために、係や給食当番の仕組み、仕事内容、その必要性を教え、声をかけながら一緒に支度をする。一年をかけ、食べることの不安を減らし、教師の声かけがなくても自ら動けるようにしていく。

4 活動の考察

給食が始まる時に、配膳の方法、食べる時の約束を教わる。子ども達は、時間をかけながらくり返し活動する中で手順を覚えていくと同時に、だんだんと自分が食べられる量を知っていく。初めは、多く盛りすぎたり思うように食べられなかったりして残してしまうことが度々あった。食べる前に自分で減らして完食したり、教師や友だちに励ましてもらいながら苦手な物に挑戦したりしていくことで「食べることができました！」という思いを重ね、自信をもつことができた。担任と一緒に植えたサツマイモを、草むしりや水やりをして大きく育てていく。いもほりをし、収穫の喜びを味わうと共に、み

んなで食べることで楽しく食事をするのができた。友達と「おいしいね。」「〇〇ちゃん上手に作れたね。」など思いを伝え合う様子が見られる。

5 指導の留意点

給食指導では、4月の初期に絵と実物を用いて方法と役割を教える。誰が何をやるか、ひと目見てわかるように当番表を用意する。表があることで、7月頃には担任の声かけがなくても自分たちで確認して、支度を始められるようになった。担任が始めに減らすように声をかけ、自分が決めた分は一生懸命食べることをルールづけをしていく。完食できたときは「がんばったね！」と認めたり、成長が見られたときは「これができるようになったね。」と褒めたりすることで少しずつ自信をもてるようにしていく。また、配膳でも残量なく配れたときも頑張りを認めていく。さつまいもでは、JAの人と連携をとって植え方を教わり、子どもと一緒に植えていく。日ごろから、さつまいもの水やりや草取りをするよう声かけをしたり係を決めたりして愛情をもって育てるようにしていく。収穫した後は、楽しく食べるできるように簡単な調理の時間を設定する。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|----------------------|---|
| ① | 健康な心と体 | ステップ1, 2, 3「様々な食べ物に興味・関心を持つ。」 「友だちと楽しく食べることで色々な味に親しむ。」 「野菜を育てたり収穫したりして、食に感謝し、美味しさを味わう。」 |
| ② | 自立心 | ステップ1「環境に慣れ、生活の流れを知り、基本的な生活習慣を身に付ける。(食事)」 |
| ③ | 協同性 | ステップ2, 3「友だちとやりとりしながら、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちが分かる。」 「応援したり、励まし合ったりする。」 |
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | ステップ1, 2「集団生活に必要なきまりやルールの大切さを知る。」 「必要なルールを守って生活しようとする。」(配膳の仕方) |
| ⑤ | 社会生活との関わり | ステップ3「自分の役割に責任を持って取り組むことで、人のためになることを知り、喜びを感じる。」(給食当番活動、栽培活動) |
| ⑥ | 思考力の芽生え | ステップ1「ものやことがらにかかわり、興味・関心をもつ。」(栽培活動、食事) |
| ⑦ | 自然との関わり・生命尊重 | ステップ1, 2「身近な水、砂、土、草花や虫などに触れることを楽しむ。」 「栽培や飼育を通じて、身近な動植物の成長や生体に興味・関心をもつ」 |
| ⑧ | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ステップ2, 3「文字や数、図形等に興味・関心を持つ。」 「遊びの中で数量を数えたり、比べたりする。」(栽培活動) |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | ステップ2「自分の思ったことや感じたことを言葉で伝える。」 |

X 自彊小学校

1 活動名「お兄さん・お姉さんと一緒に学校探検をしよう」 (7歳児 5月)

2 活動時期の子どもの実態

本年度の1年生児童は、小学校に入学し、はじめての学校、はじめての勉強に対してとても意欲的に取り組んでいる。学習面では、平仮名を楽しく学んだり、音楽や体育の学習で笑顔いっぱい活動したりする姿が見られた。また、休み時間などは、友だちと関わり合いながら、仲よく生活する姿が見られた。このように1年生児童は、何事にも一生懸命に取り組む姿が見られ、他の学年の児童や教職員、学校の教室や設備などの様子にも興味をもち、積極的に関わろうとする様子も見られた。



案内された場所にある〇×クイズに答えている様子

3 活動のねらい

学校には、様々な教室や設備があり、学校には、様々な教室や設備があり、には学校を知ることを通して、教室配置や設備について知ったり、他の学年の児童や教職員が、1年生を歓迎し、支え、応援していることを知ったりすることで、安心して学校生活を送って欲しいと願っている。そのため、学校探検の活動を行うこととした。このとき



移動する時には、お姉さんが優しく手を繋いでくれたよ

に、2年生と一緒に行動し、学校のことを教えてもらうことで、お兄さん・お姉さんが1年生のことを思って、学校を案内していることに触れたり、案内してくれた2年生に感謝の気持ちをもったりすることで、「学校には、私たちのことを思ってくれる人がたくさんいるんだな。そんな自彊小学校ってすてきだな。自彊小の仲間になれてよかったな」と学校への安心感や所属感を強めてくれることを期待し「お兄さん・お姉さんと一緒に学校探検をしよう」という活動を設定した。

4 活動の考察

「学校探検」を2年生が、1年生を案内する形で行った。案内の中では、1年生は、2年生から「教室の場所や利用の仕方」「チョークが足りなくなったら事務室に取りに行けばよいこと」「廊下は右側を歩くことや他学年の教室や職員室の前は静かに通ること」などといった基本的な生活の仕方などを学んだ。1年生は、自分達が生活する学校について知り、学んだことをもとに特別教室を利用したり、きまりを守って生活したりすることができるようになった。

また、チェックポイントに教師が立ち、そこでサインやスタンプをもらえるというス

スタンプラリー形式で行った。スタンプラリーというお楽しみの要素を加えたことで、1年生は、2年生と共に楽しく学校のことを学ぶことができた。このことで、「学校って楽しいところだ!」ということを改めて実感したと同時に、「あの教室を使ってみたい!」というような学習への意欲も高まった。

さらに、1年生と2年生のペアを作り、手を繋いで行動したことで、お兄さん、お姉さんとの仲が深まった。活動の最後に1年生は、上級生に優しく学校の中を案内してもらったことに対して大きな声で「ありがとう。」と感謝の気持ちを伝える姿が見られた。また、休み時間などに1年生と2年生が関わる姿も見られ、1年生も安心して学校生活を送ることができるようになった。

5 指導の留意点

まず、1年生が活動の見通しをもつことができるように、1年生の各担任が教室で事前に学校探検の方法を1年生児童に説明をした。具体的には、2年生が学校探検に連れて行ってくれることや、学校にはどんな場所があり、どのように使うのかを○×クイズで教えてくれることなどを伝えることとした。また、2年生にも当日1年生を連れてリードできるように、事前説明や準備として、生活科の時間を使って、2年生児童が○×クイズを用意しておいたり、どのような順番で各場所を回るかを決めておいたりした。このような事前の準備や説明を丁寧に行っておくことが大切であった。

次に、教師が活動中の注意点を1年生と2年生に確認しておくことが大切である。そのために、学校探検を始める前に、体育館に一度全員が集まり、「1年生と2年生のペアは、必ず手を繋いで歩くこと」や「2年生の言うことを聞いて行動すること」「廊下は静かに歩いて通ること」などを事前指導した。また、1年生には、加えて2年生の言う事をしっかり聞いて活動することも確認した。

さらに、活動中は、スタンプラリーのチェックポイントに、1年担任と2年担任の教員を配置し、子ども達の様子を観察や安全確認を行った。そのため、子ども達は困ったことがあった場合に、その都度、チェックポイントの教員に相談することができた。さらに、安全に活動できるように、学校内は歩いて行動するように、常に声掛けをしてきた。そうすることで、指導と見届け、評価を一体とするように配慮した。

6 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目との関連

| | | |
|---|--------------|--|
| ② | 自立心 | これから自分が生活する学校のことについて知り、環境に慣れる。 |
| ④ | 道徳性・規範意識の芽生え | 学校での必要なルールを守って生活しようとしている。お兄さん、お姉さんに目を向け、感謝の気持ちをもつ。 |
| ⑨ | 言葉による伝え合い | お兄さん、お姉さんと関わり、適切な言葉を使って話をする。 |

13 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業について

(1) 教育課程研究指定校事業の概要

現行幼稚園教育要領、学習指導要領が実施されていることを踏まえ、新たな教育課程の編成、指導方法等が全国的かつ積極的に研究され、それらが定着するよう、学習指導要領のねらい等を踏まえた教育課程の編成、指導方法等の工夫改善のための実践研究及びその研究結果の全国的な普及を図るとともに、学習指導要領に基づく各教科の目標や内容に照らした児童生徒の学習の実現状況を把握し、今後の教育課程等の工夫改善を図ることを目的としている。

(2) 研究課題

ア 課題3「学校全体で取り組む研究課題」

イ (5)「校種間の連携による教育課程の編成、指導方法の工夫改善に関する実践研究」

(3) 対象校種

幼稚園、保育所、小学校

(4) 対象校

ア 幼稚園

学校法人川尻学園ちどり幼稚園、学校法人住吉学園ひばり幼稚園

イ 保育所等

吉田町立さくら保育園、吉田町立すみれ保育園、

吉田町立さゆり保育園、吉田町立わかば保育園、

吉田町立こども発達支援事業所

ウ 小学校

吉田町立住吉小学校、吉田町立中央小学校、吉田町立自彊小学校

(5) 研究期間

2年間（平成29年度、平成30年度）

(6) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して～幼稚園・保育所等・小学校が連携して作成した「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育の実践と検証～

(7) 研究主題設定の理由

近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話が聞けないなどといった、いわゆる「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また、幼稚園・保育所等・小学校（以下、「幼保小」とする）の連携は十分ではなく、教職員間の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流に止まっている。

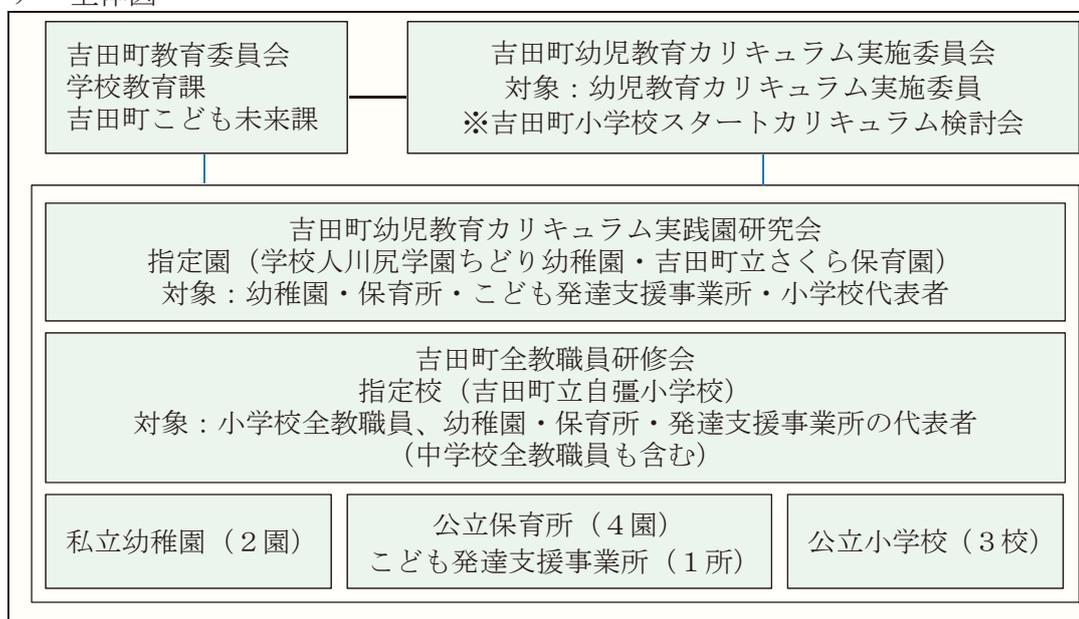
そこで、幼保小の教職員が、育てたい子供の姿を共有し、その実現に向けて、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え、昨年、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実

と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

(8) 研究体制

ア 全体図



イ 校種間連携協議会の構成員・人数

| |
|--|
| <p>吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会 (14人)</p> <p>学 識 経 験 者：千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏 (委員長 1人)</p> <p>私立幼稚園関係者：園長代表 (1人)・教諭 (2人)</p> <p>公立保育所関係者：園長代表 (1人)・保育士 (5人)</p> <p>公立小学校関係者：校長代表 (副委員長 1人)・教諭 (3人)</p> |
|--|

(9) 平成 29 年度の主な取組と平成 30 年度の計画

| | |
|----------|--|
| 平成 29 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知 ・「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正 ・「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討 ・「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討 ・「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」における「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり |
| 平成 30 年度 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導の留意点の取りまとめ及び幼児教育関係者対応の指導書の作成 ・「吉田町スタートカリキュラム」に基づいた各小学校の実践及び分析 ・実施委員会を活用した「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正 ・活動や授業の改善の成果と課題を反映させた指導計画等の分析 ・実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実 |

(10) 「平成 29 年度の研究内容及び具体的な研究活動」、「研究の成果と課題」等については、「平成 29 年度研究成果中間報告書」(別紙資料)を参照。

| | | | | | |
|------------------------------------|---|----------------|---|------------|-----------------|
| 都道府県・ 指定都市番号 | 22 | 都道府県・ 指定都市名 | 静岡県 | 研究課題番号・校種名 | 3(5)幼稚園・保育所・小学校 |
| | | | | 領域名 | 校種間連携 |
| 研究課題 | 学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 | | | | |
| ふりがな 学校名 (園児・児童・ 生徒数) | がっこうほうじんすみよしがくえん ようちえん 学校法人住吉学園ひばり幼稚園(209人) がっこうほうじんかわしりがくえん ようちえん 学校法人川尻学園ちどり幼稚園(148人) よしだちようりつ ほいくえん 吉田町立さくら保育園(93人) よしだちようりつ ほいくえん 吉田町立すみれ保育園(146人) よしだちようりつ ほいくえん 吉田町立さゆり保育園(119人) よしだちようりつ ほいくえん 吉田町立わかば保育園(149人) よしだちようりつ ほったつしえんじぎょうしょ 吉田町立こども発達支援事業所(20人) よしだちようりつすみよししょうがっこう 吉田町立住吉小学校(525人) よしだちようりつちゅうおうしょうがっこう 吉田町立中央小学校(729人) よしだちようりつじきょうしょうがっこう 吉田町立自彊小学校(433人) | | 学校・地域の特色及び実態等 ・核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴う家庭や地域の教育力の低下 ・小学校入学時における学校生活への不適応等、「小1プロブレム」の常態化 ・子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開するための幼児教育カリキュラムの作成・実践 ・私立幼稚園、公立保育所等と公立小学校との連携のスタート | | |
| 所在地（電話番号） | 【幼稚園・小学校】吉田町教育委員会学校教育課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2151) 【保育所等】吉田町こども未来課 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地 (0548-33-2153) | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://www.town.yoshida.shizuoka.jp/3046.htm | | | | |
| 研究のキーワード | ○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ○発達過程における育てたい子供の姿 ○子供の発達と学びの連続性 ○吉田町幼児教育カリキュラム ○スタートカリキュラム | | | | |
| 研究結果のポイント | ○「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携の強化 幼稚園・保育所等・小学校の連携のための組織をつくり、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成及び実践した結果、教職員の異校種及び他園校への相互理解が進み、協働した取組が進んだ。 ○「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動の充実 「発達過程における育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。 ○「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり 「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づき、「子供の幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子供を育成する」をテーマに、スタートカリキュラムの検討が進んだ。 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して～幼稚園・保育所等・小学校が連携して作成した吉田町幼児教育カリキュラムに基づいた教育の実践と検証～

(2) 研究主題設定の理由

近年、吉田町では核家族化や共働き、ひとり親などの家庭の増加に伴い、家庭や地域の教育力が低下している。教育現場では、小学校入学時において、学校生活にうまく適応できず、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話が聞けないなどといった、いわゆる

「小1プロブレム」といわれる状況が起きている。また、幼稚園・保育所等・小学校（以下、「幼保小」とする）の連携は十分ではなく、教職員間の学級編成のための情報交換や幼児・児童による学校見学や遊び、イベントを中心とした交流に止まっている。

そこで、幼保小の教職員が、育てたい子供の姿を共有し、その実現に向けて、子供の発達と学びの連続性を踏まえた教育実践を展開する必要があると考え、昨年、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成した。

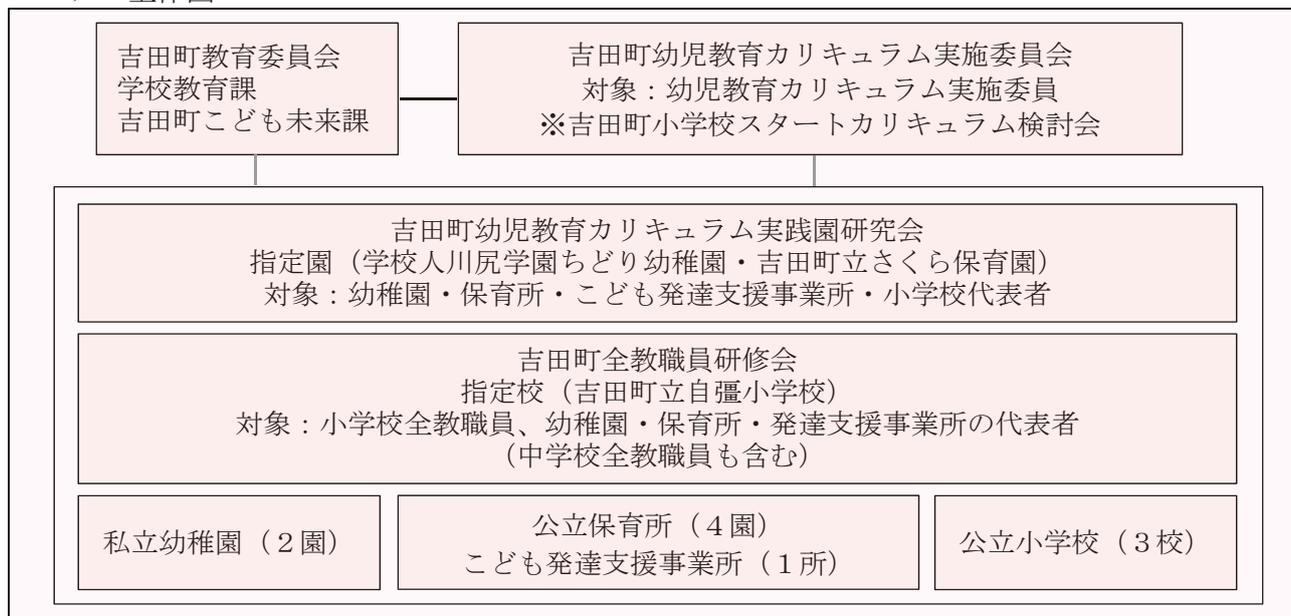
今後、共通したカリキュラムを基に、育てたい子供の姿を踏まえた幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続に資する教育課程や指導方法の在り方について探り、実践していきたい。

【吉田町幼児教育カリキュラム】

吉田町教育大綱における切れ目のない効果的な「つながりのある教育」の推進に向け、私立幼稚園、公立保育園、公立小学校の関係者で構成する「吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会」において作成した、吉田町内全ての幼児教育を行う施設、小学校に共通するカリキュラムである。作成の過程では、幼稚園教諭、保育士、小学校教員等（以下、「指導者」とする）の代表者が3歳時から1年生までの実践を持ち寄り、各校種保護者代表者とともに幼稚園教育要領等に示された「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、実際の子供の姿を抽出、検討するとともに、発達に即して整理した。その結果、3歳時から5歳児までの発達の過程を学年等の区分に抛らずに3ステップに分け、具体的な幼児の姿を示した「発達過程における育てたい子供の姿」（以下、「育てたい子供の姿」とする）及び指導の留意点（試案）としてまとめ、指導者が共有するとともに、子供一人一人の学びを的確に把握することを目指している。

(3) 研究体制

ア 全体図



イ 校種間連携協議会の構成員・人数

- 吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会（14人）
 学 識 経 験 者：千葉大学教育学部教授 松寄洋子氏（委員長1人）
 私立幼稚園関係者：園長代表（1人）・教諭（2人）
 公立保育所関係者：園長代表（1人）・保育士（5人）
 公立小学校関係者：校長代表（副委員長1人）・教諭（3人）

(4) 1年目の主な取組

- 平成29年度
- ・「吉田町幼児教育講演会」における幼児教育に関する国の動向や町の方向性の周知
 - ・「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」におけるカリキュラムの実施状況確認と修正
 - ・「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」、「吉田町全教職員研修会」における公開保育や公開授業の参観時の子供の姿からの適切な指導の在り方についての検討
 - ・「吉田町幼保・小連絡会」や子供の交流における情報交換や学級編成の検討
 - ・「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」における「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携

- (ア) 指導者が、「吉田町幼児教育講演会」へ積極的に参加することで、幼児教育に関する国の動向や町の方向性についての理解と共有を図る。
- (イ) 指導者の代表者が、「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」に参加し、「吉田町幼児教育カリキュラム」の活用状況を確認するとともに、「指導の留意点（試案）」について、それぞれの施設の実践を基に協議し、修正を図る。
- (ウ) 指導者が、「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」や「吉田町全教職員研修会」に参加し、公開保育や公開授業の参観時に見られる子供の姿を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえた指導の在り方について検討する。
- (エ) 各施設における定期的な「吉田町幼保・小連絡会」の開催と計画的な子供の交流により、円滑な幼保小の接続を図る。

イ 「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動

- (ア) 幼保小において、教育等の実践（以下、「活動」とする）を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連付け、整理することで指導計画等の改善を図る。
- (イ) 「育てたい子供の姿」を意識し、活動や授業における子供の様子やその変容を捉えるとともに、個に応じた適切な指導について追求する。

ウ 「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

小学校の教員が主体となって「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」を開催し、「吉田町幼児教育カリキュラム」を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムを検討する。

(2) 具体的な研究活動

ア 「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携

- (ア) 吉田町幼児教育講演会においては、吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会委員長であった千葉大学教育学部教授松寄洋子氏から、改訂幼稚園教育要領並びに改定保育所保育指針の概要の説明と「吉田町幼児教育カリキュラム」の具体的な活用方法の説明があり、参加した指導者の理解が深まった。
- (イ) 各施設では、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育実践が行われ、職員研修では、各活動のねらいに迫るための指導の留意点について検討を重ねている。「吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会」では、各施設における「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育実践の進捗状況を確認し合うとともに、この「指導の留意点（試案）」についての意見を持ち寄り、修正を図った。また、「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」の指導案の検討も事前に行うことができ、研究会における公開保育の参観や事後研修会での協議を深めることにつながった。
- (ウ) 「吉田町幼児教育カリキュラム実践園研究会」や「吉田町全教職員研修会」においては、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた教育活動の実践及び参観、事後の協議により、公開保育や公開授業の参観時に見られる子供の姿を基に子供の発達と学びの連続性を踏まえた指導の在り方について、積極的な意見交換が行われた。
- (エ) 例年、年2回、幼稚園と保育園等の教職員が小学校に出向き、当該校の校長からの学校経営方針の説明を受け、授業参観、子供に関する情報交換、学級編成の検討などは行っている。さらに、小学校によっては、幼児が小学校に招待されたり、活動に加わったりするなどの交流も計画的に行われるようになってきている。このような取組とともに、小学校では、教職員の幼児教育の理解とそれに基づいた教育指導が進んでいる。

イ 「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動

- (ア) 幼保小において、これまでの教育実践を振り返り、活動を「育てたい子供の姿」と関連付け、整理することで、活動における幼児の学びを具体的に確認するとともに、指導者の意識が薄かったために幼児の体験が十分でなかった点も明らかになった。そこで、指定園においては、幼児が必要な体験ができるように、環境の構成や活動の工夫を行った。このように、活動の一場面と「育てたい子供の姿」の関連付けにより、指導者と参観者が自分の視野を広げることができ、次の実践に生かすことができている。

(イ) 指導者は、「育てたい子供の姿」を基に、日々実践している活動や授業において、子供の様子やその変容を捉えるとともに、ねらいの設定や環境構成を含めた手立てが適切であったかを評価し、改善に努めている。各施設における研究保育では、指導者が、参観後の事後研修に、参観時に見られた子供の姿と「育てたい子供の姿」とを関連付け、協議を深めたり、「指導の留意点(試案)」を基に、実際の指導から必要と思われる内容を洗い出し、修正及び共有を図ったりしている。

ウ 「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

小学校関係者による「吉田町小学校スタートカリキュラム検討会」において、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいたスタートカリキュラムの検討を行っている。「子供の幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子供を育成する」(仮)をテーマに掲げ、「育てたい子供の姿」を設定するとともに、4月は第1週から各週、5月から7月までは毎月ごとにねらいを定め、生活指導においては「身の回りの人との関わり」として、学習指導においては「生活科を中心とした学習」、「生活科以外の教科を中心とした学習」、「子供の主体的な姿」として、幼児教育の学びを継承する内容を具体的に検討している。今後、この原案は、吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会にて協議される予定であり、子供の発達と学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムの作成が組織的に進んでいる。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

○「吉田町幼児教育カリキュラム」を共有した校種間連携の強化

幼保小の連携のための組織をつくり、「吉田町幼児教育カリキュラム」を作成及び実践した結果、指導者に異校種及び他園校への相互理解が進み、協働した取組が進んだ。

○「育てたい子供の姿」を踏まえた教育活動の充実

「育てたい子供の姿」を踏まえた教育計画の見直しにより、指導者の意識改革とともに活動や授業の改善が進んだ。

○「吉田町幼児教育カリキュラム」及び連携を生かしたスタートカリキュラムづくり

「子供の幼児期の育ちを小学校につなげ、主体的に学びに向かう子供を育成する」(仮)をテーマに掲げ、「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいたスタートカリキュラムを検討が進んだ。

●指導者の取組を反映させた吉田町幼児教育カリキュラムの修正や更新

「吉田町幼児教育カリキュラム」に基づいた具体的な実践から、各活動のねらいに迫るための効果的な手立てや指導の留意点などをまとめ、共有する必要がある。

●「育てたい子供の姿」を意識した子供一人一人の成長の見取りの追求

各施設において、子供の姿の変容を基に、活動や授業の改善の成果と課題を明らかにし、次年度の教育計画等に反映させる必要がある。

●平成29年度に検討・作成した「吉田町スタートカリキュラム」の実践を行い、その成果と課題を明確にし、修正を図る必要がある。

●指導者の意識改革と資質向上を目指した研修体制の充実

本研究の取組により、研究実践への指導者の意識の高まりがあることから、継続的・計画的な研究会や実施委員会の開催とともに参加者を拡張する必要がある。また、幼児教育の充実や幼保小の連携を図っている先進地区への視察等を拡張することで、吉田町内の指導者の資質向上を図ってきたい。

4 今後の取組

- (1) 指導の留意点の取りまとめ及び幼児教育関係者対応の指導書の作成
- (2) 「吉田町スタートカリキュラム」に基づいた各小学校の実践及び分析
- (3) 実施委員会を活用した「吉田町スタートカリキュラム」の検討及び修正
- (4) 活動や授業の改善の成果と課題を反映させた指導計画等の分析
- (5) 実践園研究会の継続的な開催と各施設における職員研修の充実

14 吉田町幼児教育カリキュラム作成委員会の委員の紹介

| No. | 区 分 | 所 属 等 | 氏 名 |
|-----|-----------------|-------------|-----------|
| 1 | 学 識 経 験 者 | 千葉大学教育学部教授 | 松 寄 洋 子 |
| 2 | 幼 稚 園 関 係 者 | ひばり幼稚園長 | 三 輪 戸 一 郎 |
| 3 | | ちどり幼稚園長 | 佐 藤 恒 次 |
| 4 | | ひばり幼稚園教諭 | 桂 好 美 |
| 5 | | ちどり幼稚園教諭 | 高 島 朋 子 |
| 6 | | ひばり幼稚園保護者代表 | 内 田 真 美 |
| 7 | | ちどり幼稚園保護者代表 | 江 端 華 奈 子 |
| 8 | | 保 育 園 関 係 者 | すみれ保育園長 |
| 9 | こども発達支援事業所主任保育士 | | 増 田 靖 子 |
| 10 | さくら保育園主任保育士 | | 小 西 み どり |
| 11 | さゆり保育園主任保育士 | | 大 場 美 紀 代 |
| 12 | すみれ保育園保育士 | | 大 塚 裕 之 |
| 13 | わかば保育園保育士 | | 岩 谷 真 沙 海 |
| 14 | 保育園保護者代表 | | 横 山 明 子 |
| 15 | 小 学 校 関 係 者 | 中央小学校長 | 水 嶋 浩 之 |
| 16 | | 住吉小学校教諭 | 森 下 寛 子 |
| 17 | | 中央小学校教諭 | 川 口 侑 希 |
| 18 | | 自彊小学校教諭 | 中 村 友 美 |
| 19 | | 小学校保護者代表 | 山 本 美 佳 |

※所属等は平成29年3月31日現在

15 吉田町幼児教育カリキュラム実施委員会の委員の紹介

| No. | 区 分 | 所 属 等 | 氏 名 |
|-----|-------------|-----------------|----------------------|
| 1 | 学 識 経 験 者 | 千葉大学教育学部教授 | 松 寄 洋 子 |
| 2 | 幼 稚 園 関 係 者 | ちどり幼稚園長 | 佐 藤 恒 次 |
| 3 | | ひばり幼稚園教諭 | 桂 好 美 |
| 4 | | ちどり幼稚園教諭 | 高 島 朋 子 |
| 5 | 保 育 園 関 係 者 | さくら保育園長 | 村 松 好 乃 |
| 6 | | こども発達支援事業所主任保育士 | 増 田 靖 子 |
| 7 | | さくら保育園主任保育士 | 小 西 み どり |
| 8 | | さゆり保育園主任保育士 | 大 場 美 紀 代 |
| 9 | | すみれ保育園保育士 | 大 塚 裕 之 |
| 10 | | わかば保育園保育士 | 岩 谷 真 沙 海 |
| 11 | 小 学 校 関 係 者 | 自彊小学校長 | 織 田 澄 夫 |
| 12 | | 住吉小学校教諭 | 森 下 寛 子 |
| 13 | | 中央小学校教諭 | 川 口 侑 希 |
| 14 | | 自彊小学校教諭 | 酒 井 友 美 (旧姓 中村友美) |

※所属等は平成30年3月31日現在

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた
幼児教育の充実と小学校教育への効果的な接続を目指して

吉田町幼児教育カリキュラム

教師・保育士用指導書

平成 30 年 3 月発行

吉田町・吉田町教育委員会（学校教育課）

住所 〒421-0395 静岡県榛原郡吉田町住吉 87 番地

電話番号 0548-33-2151 FAX 番号 0548-33-2155

